

リアホナ

表紙の記事——

彼らの足跡に倣って
8ページ

末日の恐怖と勝利
18ページ

青少年に
ポルノグラフィーについて話す
34, 38ページ

かつどう——
シオンはどこにありますか
「フレンド」8, 12ページ

末日聖徒イエス・キリスト教会公式機関誌(日本語版)

大管長会:ゴードン・B・ヒングレー、トーマス・S・モンソン、ジェームズ・E・ファウスト

十二使徒定員会:ボイド・K・バッカー、L・トム・ベリー、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホランド、ヘンリー・B・アイリング、ティーター・F・ワークトドルス、デビッド・A・ベドナー

編集長:ジェイ・E・ジェンセン

顧問:ゲリー・J・コールマン、菊地良彦、ジェラルド・N・ランド、W・ダグラス・シャムウェー

実務運営ディレクター:デビッド・L・フリッシュニクト

編集ディレクター:ビクター・D・ケーブ

主任編集者:ラリー・ヒラー

グラフィックスディレクター:アラン・R・ロイボーク

編集主幹:R・バル・ジョンソン

編集主幹補佐:ジェニファー・L・グリーンウッド

副編集長:ライアン・カー、アダム・C・オルソン

編集補佐:スーザン・パレット

編集スタッフ:クリスティー・バンス、リンダ・ステール・クーパー、デビッド・A・エドワーズ、ラリーン・ポーター・ガント、キャリー・カステン、メリッサ・メルリ、マイケル・R・モリス、サリー・J・オデカーク、ジュディス・M・パーラー、ビビアン・ポールセン、リチャード・M・ロムニー、ジェニファー・ローズ、ドン・L・サール、ジャネット・トーマス、ポール・バンデンバーク、ジュリー・ワーデル、キンバリー・ウェブ

主任秘書:モニカ・L・ディッキンソン

マーケティング部長:ラリー・ヒラー

実務運営アートディレクター:M・M・カワサキ

アートディレクター:スコット・バン・カンペン

制作主幹:ジェン・アン・ピーターズ

デザイン・制作スタッフ:カリ・R・アロウ、コレット・ネベカー・オース、ブリタニー・ジョーンズ・ビーム、ハワード・G・ブラウン、ジュリー・パーデッド、トーマス・S・チャイルド、レジナルド・J・クリステンセン、キャスリーン・ハワード、エリック・P・ジョンセン、デニス・カービー、ランドール・J・ピクストン

印刷ディレクター:クレーグ・K・セジウィック

配送ディレクター:ランディー・J・ベンソン

日本語版翻訳課長:ヘンリー・W・サブストローム

●定期購読は、「[リアホナ]注文用紙」でお申し込みになるか、郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●[リアホナ]のお申し込み・配送についてのお問い合わせ……〒133-0057東京都江戸川区西小若5-8-6/末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター 電話:03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会

〒106-0047東京都港区南麻布5-10-30

電話 03-3440-2351

年間予約/海外予約 1,800円(送料共)

半年予約 1,200円(送料共)

普通号/大会号 200円

[リアホナ]への投稿およびご質問は、下記の連絡先にお送りください。

Room 2420, 50 East North Temple Street,

Salt Lake City, UT 84150-3220, USA

電子メール: liahona@ldschurch.org

[リアホナ](モルモン書に出てくる言葉。「羅針盤」または「指示器」の意)は、以下の言語で出版されています。

アイスランド語、アヒ(ニア)語、アルメニア語、イタリア語、インドネシア語、ウクライナ語、ウルドゥー語、英語、エストニア語、オランダ語、韓国語、カンボジア語、ギリシャ語、キリバス語、クアチア語、サモア語、シンハラ語、スウェーデン語、スペイン語、スロベニア語、セバ/語、タイ語、タガログ語、タヒチ語、タミル語、中国語、チェコ語、テルグ語、デンマーク語、ドイツ語、トンガ語、日本語、ブルウェー語、ハイチ語、ハンガリー語、ヒスラマ語、ヒンディー語、フィジー語、フィンランド語、フランス語、ブルガリア語、ベトナム語、ポーランド語、ポルトガル語、マルシャル語、マダガスカル語、モンゴル語、トピア語、リトアニア語、ルーマニア語、ロシア語。(発行頻度は言語により異なります。)

©2007 Intellectual Reserve, Inc. 著作権所有。印刷:日本

[リアホナ]に掲載されている文章や視覚資料は、教会や家庭において臨時に、また非営利目的に使用することは複製することができます。視覚資料に関しては、作品のクレジットに制限が記されている場合に複製できないことがあります。著作権に関するご質問は、Intellectual Property Office, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, UT 84150, USAに郵送するか、電子メール——cor-intellectualproperty@ldschurch.org にご連絡ください。

[リアホナ]は、教会のホームページwww.lds.org(英語)に様々な言語で掲載されています。英語の場合は「Gospel Library」(福音図書館)をクリックしてください。その他の言語は言語名をクリックしてください。

For Readers in the United States and Canada:

July 2007 no. 7 LIAHONA (USPS 311-480) Japanese [ISSN 1521-4729] is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, UT 84150, USA. Subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$12.00 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah. Sixty days' notice required for change of address. Include address label from a recent issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian subscriptions to Salt Lake Distribution Center at address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa, MasterCard, American Express) may be taken by phone. (Canada Post Information: Publication Agreement #4017431)

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.

一般

- 2 大管長会メッセージ——
隠れたくさびの危険性 トーマス・S・モンソン管長
- 14 聖なる家庭を築くための3つの道具
シャーリー・R・クライン
- 18 すべての神権時代の中で最も大なるこの神権時代
ジェフリー・R・ホランド長老
- 25 家庭訪問メッセージ——
聖さを実践することによって、
神の御手に使われる者となる
- 26 主のたとえ
- 38 青少年にボルノグラフィについて話す
ダン・グレイ
- 42 末日聖徒の声
開拓者たちのことを思い出しました
ダニエル・システナス
子供たちを湖から戻らせなさい
ジャネル・ジョンソン
また話せるようになるでしょうか
ジャビエル・ガマラ・ビレナ
- 48 読者からの便り

表紙

表紙——写真/ライリー・M・ロリマー

裏表紙——青少年の写真/ライリー・M・ロリマー

手帳の写真/ウェルデン・C・アンダーセン

「フレンド」表紙

絵/ジェリー・トンプソン

家庭の夕べのためのアイデア

以下のアイデアは、家庭だけではなくクラスでのレッスンにおいても役立てることができま

「アイオワを思う」8ページ——開拓者のように、自分が今住んでいる場所を離れて新しい土地に移らなければなら

ないとしたら、何を持って行くか家族に聞きます。その旅を続けるにはどのような霊的な特質が必要でしょうか。自分の先祖の経験談や、先祖を支えた特質について話してください。

「聖なる家庭を築くための3つの道具」14ページ——まず、どうすれば家庭をもっと神聖な場所にできるの

かを話し合い、そのための簡単な方法を挙げてください。次に食事あるいはデザートを食べながら、家族と一緒に食事をする大切さについて話しています。最後に、家族でできる活動や奉仕などを計画し、一緒に何かをすることによって、霊的また物質的にどのような祝福が得られるかについて話し合ってください。

「すべての神権時代の中で最も大なるこの神権時代」18ページ——明るい未来への希望を、言葉か絵で家族に表現してもらいましょう。そうした希望の実現を妨げる出来事に

26 主のたとえ



18 すべての神権時代の中で最も大なるこの神権時代



今月号のどこかに隠れている
ドイツ語のCTRリングを捜しながら、
家族が幸せになるために、
あなたがどんなことができるか
考えてください。



青少年

- 8 アイオワを思う キャロライン・H・ベンズレー
- 30 言葉遣いであなたのことが分かる L・トム・ペリー長老
- 34 ポルノグラフィーとの戦い
匿名
- 46 御存じでしたか？
- 47 短いメッセージ——
模範的な行い
ビクトリア・メレニー

8 アイオワを思う

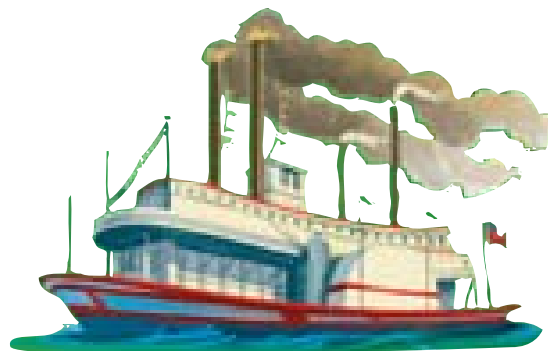


フレンド

- F2 預言者の声——
トウモロコシ畑での勇気
ジェームズ・E・ファウスト管長
- F4 分かち合いの時間——
かぞくのしんこう
エリザベス・リックス
- F6 スペンサー・W・
キンボールだいかんちょうの
しょうがいから——
あくから遠ざかる
- F8 シオンへのしゅうごう
- F10 これで十分よ ジェーン・マクブライド・チョート
- F14 小さなお友だちへ——神殿の祝福 ポール・E・コーリカー長老
- F16 色をぬりましょう



F4 かぞくのしんこう



F8 シオンへのしゅうごう

はどんなものがあるか話し合ってください。次に信仰に関する聖句を読みます。信仰は恐れのお気持ちをどのように静めてくれるのでしょうか。希望ある将来を迎えるために家族で何ができるかを、この記事をご参考にしながら話し合います。

「言葉遣いであなたのことが分かる」 30ページ——家族に割り当てを与えて、赤ん坊、歴史的な人物、あるいは聖典に登場する人といった特定の人物になって話してもらい、他の家族はその人がどのような性格の持ち主なのかを推測します。海軍にいたときのL・トム・ペリー長老の話を読みます。言葉遣いはどのようにあなたの人格を表すのでしょうか。良い言葉遣

いができるように、ペリー長老の3つの勧めを紹介してください。

「トウモロコシ畑での勇気」 F2ページ——ロリンズ家の姉妹たちの物語と、ラバンのところに真鍮版を取りに行ったニーファイとそのきょうだいたちの話と比較します(1ニーファイ3-4参照)。それぞれの物語の中で、彼らはどのように勇気を示しましたか。聖典が与えられていて、それを読むことができるというのはなぜ大切なのですか。

今月号に採り上げられているテーマ

Fは「フレンド」の略

イエス・キリスト	26	指導者の務め	46
祈り	43	初等協会	F4
改心	42, F10	神権	46
開拓者	8, 42	信仰	45
家族	14, F4, F10, F16	神殿	F10, F14
家族歴史	F4	聖霊	43
家庭	14	責任	14
家庭のタブ	1	たとえ	26
家庭訪問	25	徳	34, 38, F6
聖さ	25	肉体	38
キンボール,		働く	14
スペンサー・W	F6	腹を立てること	2
悔い改め	34	ホームティーチング	7
言葉遣い	30	ポルノグラフィ	
コミュニケーション	46	勇気	F2, F6
再臨	18	赦し	2
賛美歌	47	預言者	8



大管長会メッセージ

隠れたくさびの 危険性

大管長会第一顧問

トーマス・S・モンソン管長

19 66年4月、教会の年次総大会で当時十二使徒定員会会員であったスペンサー・W・キンボール長老（1895 - 1985年）は記憶に残る説教をしました。キンボール長老は、サミュエル・T・ホイットマンが書いた「忘れられたくさび」（“Forgotten Wedges”）という話を引用しました。わたしもホイットマンの話を引用し、その後で、わたし自身の経験をお話ししたいと思います。

ホイットマンはこう記しています。「[その冬、]氷の混じった嵐は、概して大きな災害をもたらすことはなかった。実際、電線が何本か切れて垂れ下がり、ハイウェイの事故件数が急に増えた程度だった。……普通なら、クルミの大木は、広げた枝についた氷の重みに容易に耐えられるはずであった。この大木に打撃を与えたのは、幹の中心に食い込んだ鉄のくさびだった。

この鉄のくさびの話は、[今ではクルミの木が立っている土地の所有者である]白髪の老農夫がまだ少年で、父親の農場で働いていたところにさかのぼる。当時、製材所がこの盆地



から移転したばかりで、開拓者たちは辺りに散乱した道具や余った備品などを見つけることがまだあった。……

そんなある日、[その少年は]きこりの使うくさびを見つけた。幅が広く、平らで重く、長さが30センチ以上もあり、鉄をたたいて伸ばしたものであった。[きこり用のくさびは木を倒すのに用いられるもので、のこぎりで切った切り口にくさびを挟んでから、大きなハンマーでたたいて切り口を広げるのです。]……すでに夕食の時間を過ぎていたので、少年はそのくさびを……父親が門のそばに植えた小さくなる木の木の枝の間に置いた。夕食のすぐ後か、次に通りかかったときにでも、そのくさびを小屋に持って行くつもりだった。

少年はほんとうにそうするつもりだった。しかし、実際にはしなかった。少年が大人になるころには、[くさびは]枝に挟まれて幾らか固定されていた。少年が結婚して父親の農場を継ぐころには、枝の間がしっかりと固定されて

いた。脱穀を終えてその木の下で仲間と夕食を食べたときには、半分近くが幹に食い込んでいた。……そして、その冬、氷の混じった嵐がやって来たとき、くさびは完全に幹の内部に埋まってしまっていたのである。

冷え込みが強かったその冬の夜、……三つの大きな幹の一つが裂け、太い枝がすさまじい音を立てて地面に落ちた。残った部分もバランスを失い、裂けて地面に倒れた。嵐が去った後には、あの立派な木には、小枝一本残っていなかった。

翌朝早く外に出た農夫は、木が倒れたことを知って嘆いた。……

そのとき、裂けた幹の中に何かがあるのが目に留まった。『あのくさびだ。』農夫は自分をとがめるような声でつぶやいた。『南の牧場で見つけたくさびだ。』農夫は一目見て、木がなぜ倒れたのか理解した。くさびが幹の中まで食い込んでいたために、枝を支える力が弱っていたのである。¹



わたしたちの知っている
多くの人の生活にも、
そして恐らく
わたしたち自身の
家族の中にも
隠れたくさびが
存在します。

わたしたちの生活の中のくさび

わたしたちの知っている多くの人の生活にも、そして恐らくわたしたち自身の家族の中にも隠れたくさびが存在します。

すでに他界していますが、生涯にわたる友人の話をします。名をレナードといいました。教会の会員ではありませんでしたが、奥さんと子どもたちは会員でした。奥さんは初等協会の会長として奉仕し、息子さんは立派に伝道を終えました。娘さんと息子さんは厳肅な儀式によりそれぞれの伴侶と結婚し、家族を持ちました。

レナードは、わたしも含め、だれからも好かれていました。奥さんと子どもたちが教会の責任を果たせるよう助けていました。家族とともに教会主催の様々な活動にも出席しました。善良で清い生活を送り、人に奉仕し、親切にしていました。家族はもちろん、大勢の人は、どうしてレナードが、福音によって会員にもたらされる祝福を享受することなくこの世を去ったのか不思議でなりませんでした。

晩年、レナードの健康は優れませんでした。最終的には入院し、そこで死を迎えることになりました。最後に交わした会話の中で、レナードはこう言いました。「トム、君とは子どものころからの知り合いだ。わたしがどうして教会に入らなかったのか、君に伝えておいた方がいいと強く感じてね。」彼は遠い昔の両親の経験について話してくれました。レナードの家族は、仕方なくですが、農場を売りに出さなければならぬ事態に至り、買い入れるという申し出を受けました。そこへ近所の農夫が、その申し出を断つてもう少し安い金額で自分に売ってほしい、と言ってきました。そしてこう付け加えました。「ぼくたちは前々から親友だろう。だからもしぼくにその農地を売ってくれたら、これからもよく手入れしていくよ。」レナードの両親はようやく同意し、農場は売却されました。その買い手となった近所の農夫は、教会で責任ある地位に就いていました。そういう人物なら信用できると思ったからこそ、家族は農場を売ろうと決めたのです。最初に関心を示した買い手に売っていれば得られたであろう金額を下回りましたが、それでもそうしました。ところが、売却が成立して間もなく、その隣人は自分の農場とレナードの家族から得た農場を一つに合わせ、売ってしまったのです。広げた土地の値打ちは上がり、したがって販売価格をもつり上げることになりました。レナードが絶対に教会に入らなかったのはなぜか、という長年の疑問が解けました。レナードの心には、自分たち家族は欺かれたのだという気持ちが常にあったのです。

彼はこの話を終えると、これで厄介な重荷がようやく取り払われ、造り主とお会いする用意ができたよ、と打ち明けてくれました。悲しいことに、隠れたくさびのせいでレナードは大きな祝福を得られなくなっていたのです。

代わりに愛を選ぶ

わたしの知人に、ドイツからアメリカに移住して来たある家族がいます。英語は彼らにとっては難しい言語でした。生計を立てる手段はほとんどありませんでしたが、皆、働く意欲と神への愛に満ちていました。

3番目の子どもが生まれましたが、わずか2か月後に死んでしまいました。家具職人であった父親は、大切な子どもの体に合う美しいひつぎを作りました。葬儀の日はどんよりとした曇り空で、子どもを失った家族の悲しみを反映しているかのようでした。父親が小さなひつぎを抱え、家族で礼拝堂に向かって歩いていると、わずかばかりの友人が集まって来ました。しかし、礼拝堂のドアには鍵がかかっていたのです。忙しいビショップが葬儀のことを忘れていたのです。連絡を取ろうとしましたが、無駄でした。途方に暮れた父親は、ひつぎを腕に抱え、家族を伴って、雨でびしょ濡れになりながら、歩いて帰宅したのです。

もしその家族がもっと人格の低い人々だったとしたら、ビショップを非難し、悪感情を抱いていたことでしょう。ビショップはその悲劇を知るとすぐにこの家族を訪れ、謝りました。父親の表情からは心に受けた傷がありありと見て取れましたが、目に涙を浮かべながら、謝罪を受け入れました。二人は理解の精神をもって抱き合いました。さらに怒りを引き起こすような隠れたくさびは残らず、愛と受容の精神がその場に満ちました。

人の霊は、わたしたちをつなぎ止める鎖や悪感情から解き放たれていなければなりません。そうすれば霊的に高められ、魂が快活でいられます。多くの家族の中に、傷ついた心や赦せない気持ちが存在しています。原因が何であったかはあまり問題ではありません。それがさらに傷を深めるままにしておくことはできませんし、そうしてはならないのです。非難は傷口を広げるだけです。赦しのみが癒してくれます。17世紀初期の詩人、ジョージ・ハーバートはこう言っています。「ほかの人を赦せない人は、天国に行くために自分が渡らなければならない橋を壊している。だれもが赦される必要があるのだから。」

残酷な十字架の上で息を引き取ろうとしておられた救い主

の言葉は素晴らしいものです。こう言われました。「父よ、彼らをおゆるしてください。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです。」²

赦す

自分自身を赦すことができずに、自分の目につく欠点にばかりこだわっている人々があります。わたしには、ある宗教指導者に関する大好きな話があります。この指導者は死期の近づいた女性の枕もとへ行き、慰めようとしたのですが、無駄でした。「わたしはもうだめです。」女性は言いました。「わたしの人生も、周りの人の人生もめちゃくちゃにしてしまいました。何の希望もありません。」

指導者は、洋服だんすの上に置かれた額に入ったかわいい女の子の写真に気づきました。「どなたですか」と尋ねました。

女性は顔を輝かせました。「わたしの娘です。わたしの人生で唯一、かけがえのない存在です。」

「娘さんが困っていたり、間違いを犯したりしたら、助けますか。赦してあげますか。それでも彼女を愛せますか。」

「もちろんです。」女性は声を上げました。「あの子のためだったら、何だってします。どうしてそんな質問をなさるのですか。」

「あなたに知ってもらいたいからです。」指導者は言いました。「たとえて言えば、天の御父も洋服だんすの上にあなたの写真を飾っておられるということです。天の御父はあなたを愛し助けてくださいます。主に寄り頼んでください。」

こうして、この女性の幸福を阻んでいた、隠れたくさびは取り除かれました。

そのような知識や希望、そして理解があれば、危険にさらされ試練に遭うとき、思い悩む精神や悲しむ心に慰めがもたらされます。新約聖書の一貫したメッセージは、人間の魂に新たな息吹を吹き込んで、眠りから覚まさせてくれます。絶望の影は希望の光で一掃され、悲しみは喜びに代わります。人生の雑踏の中で感じる迷いや不安は、天の御父がわたしたち一人一人を覚えていてくださるという確かな知識によって消えていきます。

救い主は、すずめでさえも御父に知られずに地に落ちることはないと教えて、この真理に対する確信を与えてくださいました。そして最後に次のように述べて、素晴らしい教えを締めくくっておられます。「それだから、恐れることはない。あなたがたは多くのすずめよりも、まさった者である。」³

以前わたしは、新聞でAP通信の次のような記事を読みました。ある老人が若いころから、ニューヨーク州カニステオの近くできょうだいとともに住んでいました。部屋が一つしかない

残酷な
十字架の上で
息を引き取る
としておられた

救い主の言葉は
素晴らしいものです。
主を御自分をはりつけに
している人々に対して
こう言われました。

「父よ、彼らをおゆるし
ください。彼らは何を
しているのか、
わからずに
いるのです。」



自己中心的な
考えやプライド、
心の痛手に
打ち勝ちましょう。
そして自ら歩み寄って
こう言うのです。
「ほんとうに悪かった。
昔のような友達に
戻ろう。」

小さな家でした。きょうだいの葬儀の際に、その老人は次のような秘密を打ち明けました。二人は若かったころにけんかをしてから、チョークで線を引いて部屋を二つに分け、線を越えて立ち入ることも言葉を交わすこともしませんでした。その日以来、62年間もです。何と強力で破壊的な「隠れたくさび」でしょうか。

アレキサンダー・ポープが書いているように、「過ちは人の常、赦すは神の業」なのです。⁴

率先して行う

時折わたしたちはすぐに腹を立てることがあります。また、かたくなになりすぎて、心からの謝罪を受け入れられないこともあります。自己中心的な考えやプライド、心の痛手に打ち勝ちましょう。そして自ら歩み寄ってこう言うのです。「ほんとうに悪かった。昔のような友達に戻ろう。わたしたちの時代の不満や怒りを未来の世代に引き継がないようにしよう。」破壊

以外の何ものをも生み出さない、隠れたくさびをすべて取り除こうではありませんか。

隠れたくさびはどこで生じるのでしょうか。あるときは未解決の論争から生じて悪感情へと発展し、自責の念と後悔が後に続きます。落胆や嫉妬、口論、思い込みに端を発するものもあります。わたしたちはそれらを解決せねばなりません。そのような原因をなくすよう努め、それらが心をむしばみ、腐敗させ、最終的には破壊してしまうに任せてはなりません。

90歳を過ぎた愛らしい御婦人が、ある日わたしたとの会話の中で不意に悲しい話をしてくれました。この女性とご主人には、時折仲たがいする近所の農夫がいました。何年も前に、その人から、あなたの敷地を通して自分の地所まで近道をしてよいかと尋ねられた、とのことでした。彼女は少し話をやめて、声を震わせながらこう言いました。「トミー、わたしたらその人を通してあげずに、彼の敷地まで遠回りさせちゃったの

よ。しかも歩いてね。わたし、間違っていたわ。後悔しているの。その人はもう亡くなったわ。でもその人に『ほんとうにごめんなさい』って言えたらどんなにいいか。もう一度チャンスがあればねえ。」

彼女の話聞いていて、ジョン・グリーンリーフ・ウィッティアの言葉が心に浮かびました。「舌が語り、ペンがつづる悲しい言葉の中で、最も悲しい言葉はこうだ。『こうであつたらよかつたのに。』」⁵

モルモン書の第三ニーファイには、次のような靈感に満ちた勧告が記されています。「……論争が、今後決してあなたがたの中にあつてはならない。……」

まことに、まことに、あなたがたに言う。争いの心を持つ者はわたしにつく者ではなく、争いの父である悪魔につく者である。悪魔は互いに怒って争うように人々の心をおり立てる。



見よ、互いに怒るように人々の心をあおり立てるのは、わたしの教義ではない。このようなことをやめるようにというのが、わたしの教義である。』⁶

わたしにとって英雄となっている二人の男性の話をして、今日の話を閉じることにします。二人の勇気ある行動は全国規模ではなく、ユタ州ミッドウェーとして知られている穏やかな場所で作られたものです。

溝を埋める

昔、ロイ・コーラーとグラント・レマンドは、教会の様々な召しを受けて一緒に働きました。二人は大の仲良しでした。二人は農夫であり、酪農家でもありました。ところがある誤解がもとでちょっとした仲たがいをしてしまいました。

後にロイ・コーラーが癌のために激しい苦痛に見舞われ、余命いくばくもなくなったとき、妻のフランシスとわたしはロイと奥さんを訪ね、ロイに祝福を与えました。その後話をしているとコーラー兄弟が言いました。「わたしの人生で最もうれしかった思い出の一つを話させてください。」彼はグラント・レマンドとの間の誤解とそれに続く不仲のことを述懐し始めました。そしてこう言いました。「わたしたちは仲たがいがいしたままでした。」

「そして、」ロイは続けました。「冬が来るのに備えて干し草を積み上げる作業をしていたある夜の事です。自然発火によって干し草に火がつき、干し草と納屋と、その中のすべてを燃やし尽くしてしまいました。わたしは茫然自失といった有り様でした。もう、どうしたらいいかまったく分かりませんでした。暗い夜で、明かりといえば、火事跡の燃えさしだけでした。そのとき、道路をこちらに向かって来るものがありました。グラント・レマンドの家の方角からです。重い消防道具を積んだトラクターのライトでした。この『救助隊』が敷地に入って来て、涙に暮れるわたしを見つけたとき、グラントがこう言いました。『ロイ、焼け跡の片付けが大変だな。息子たちとわたしがついてるから、さあ、始めよう。』」皆はすぐに作業に取りかかりました。こうして、二人をしばらくの間引き離していた隠れたくさは永久に消え去ったのです。彼らは夜を徹して働き、次の日も働きました。町の大勢の人たちが一緒に手伝ってくれました。

ロイ・コーラーもグラント・レマンドもこの世を去りました。二人の息子さんたちは同じワードのビショップリックとともに奉仕しました。わたしはこの二つのすばらしい家族を結ぶ友情のきずなを大切に心に刻んでいます。

わたしたちがいつも、家庭にあって模範となり、すべての戒めを忠実に守り、隠れたくさを心に抱くことなく救い主の次の訓戒を心に刻むことができますように。「互いに愛し合うならば、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての者が認めるであろう。」⁷ ■

注

1. Conference Report, 1966年4月, 70
2. ルカ23:34
3. マタイ10:31
4. *An Essay on Criticism* (1711年), 第2部, 525行目
5. "Maud Muller," *The Complete Poetical Works of Whittier* (1892年), 48
6. 3ニーファイ11:28-30
7. ヨハネ13:35

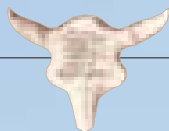
ホームティーチャーへの提案

このメッセージをよく祈って研究した後、あなたが教える人々の参加を促すような方法を用いて分かち合ってください。幾つかの例を以下に紹介します。

1. 家族の一人に片手で靴のひもを結んでみましょう。恨みを抱くことがどのような点で、片手だけを使い、助けの手を拒むようなものか話し合う。互いに赦し合ったときにどのように人々の生活が改善されたのか、例としてモンソン管長が挙げた物語の中から幾つかを分かち合う。ほかのだれかに靴のひもを結ぶのを手伝ってもらおう。他人を赦すことによって、より大きな祝福を受けられるようになることを証する。

2. くさびと大木の話のを要約する。赦さないことがどうして木にくさびを残すようなものであるのか質問する。赦せないことはどのようにわたしたちを弱めるだろうか。赦すことはどのように平安をもたらすだろうか。赦しの必要性を説いたモンソン管長のお話の一つを読む。主の赦しの模範に従ったことでもたらされた祝福について証する。

3. 部屋を二つに区切るためのひもを用意する。家族の幾人かを片方に立たせ、残りはもう片方に立たせる。二人の兄弟の話をする。ひもを取り除き、争いの気持ちを避ける方法について話し合う。ヨハネによる福音書第13章35節を読み、家族に互いに愛を示すようチャレンジする。



アイオワを思う

徒歩でシオンに向かった開拓者と手車は、
末日聖徒の移住と教会建設の
象徴となっています。

キャロライン・H・ベンズレー

18 56年のある夏の朝、16歳のジャネット・マクブライドはアイオワ州からソルトレーク盆地に向かって歩き出しました。

彼女の旅はその数か月前、家族と一緒にイギリスを離れて大西洋横断の航海に出たときに始まりました。アメリカに到着すると、鉄道を利用して当時西行きの終着駅だったアイオワ州アイオワシティーまで旅を続けたのです。

ジャネットの家族はアイオワシティーでほかの末日聖徒と合流しました。そして手車を引いて1,300マイル(約2,000キロ)を歩くという、旅の最終段階に備えて体調と装備を整えました。ジャネット・マクブライドは、1856年から1857年にかけてアイオワシティーを出発した7つの手車隊の一つ、マーティン手車隊に配属されました。

西を目指して

それから150年の時が過ぎた2006年6月9日。新たな手車隊がアイオワシティーを出発しようとしています。

この隊にはアイオワ州アイオワシティーステーキの若い男性と若い女性約70人が参加しています。開拓者の装いに身を包み、手押し車にいっぱい荷物を積み上げて、彼らはアイオワシティーの外れにあるモルモン手車公園に集まりました。そこは、ちょうど150年前の1856年6月9日に最初の手車隊が出

発した場所に当たります。西に目を向けると、ずっと昔にこの場所に立っていた当時の開拓者を思わずにはられません。

アイオワシティー第1ワードのキャメロン・ハンセンは4代前の曾祖母に当たるジャネット・マクブライドに思いを向けます。14歳のキャメロンは、シオンに向かって歩き始めたころのジャネットとほぼ同年齢です。

「この活動に参加しているぼくを見たら、とても喜んでくれると思います」とキャメロンは言います。「家族が今も教会に忠実なことを誇りに思ってくれるとうれしいです。」キャメロンは自分の旅がジャネットの経験したものよりずっと短くて楽なことを知っていますが、このように自分の祖先を思い出して敬意を示す機会に感謝しています。

フェアフィールド支部のアンナ・シェイナーも、開拓者に敬意を示す機会に感謝しています。そして、生きて目的地に到達できるかどうか分からないのに未開の地に足を進めた開拓者を、心から尊敬しています。開拓者は「なすべきことへの信仰と、それを実行する勇気を持っていた」と語る彼女は、その模範から大きな力を得ています。

この旅は、アイオワシティーのすべての青少年にとって先祖に敬意を示すすばらしい機会になりました。自分の家系に手車隊の開拓者がいてもいなくても、全員が教会の会員ですから、開拓者たちは皆の霊的な祖先なのです。

なぜアイオワで

現在、アイオワ州アイオワシティーは合衆国の中西部に位置していますが、150年前は鉄道の終着点で、辺境の地でした。1856年にアイオワシティーの町外れで野営していた初期の改宗者たちは、大部分がヨーロッパからの移民でした。遠くから旅をして来た彼らには**ほろ**幌馬車やその他の装備を買うお金



アイオワ州アイオワシティーステークの青少年たちは、
1856年に手車隊が出発した同じ場所から
手車を引き始めました。
開拓者の通った道は、現在州立公園として
保存されています。



現代の手車隊の旅は一日だけでしたが、青少年がその苦労を理解するには十分でした。右のページ——同年代の若い開拓者が着ていたと思われる服装をしたジェフ・フィルモア。ボンネット(訳注——婦人用の帽子)をかぶるアリソン・イングルとサマー・バーチ

はほとんど残っていませんでした。アイオワシティーの人々は末日聖徒に対して寛容でした。開拓者の日記にはアイオワ市民の親切な行いが記録されています。

ブリガム・ヤング大管長がより安く、そして速くシオンへ行く方法として手車の旅を発表すると、聖徒たちは喜んでそれを受け入れました。こうして、1856年6月9日に最初の手車隊がアイオワシティーを出発することになったのです。

大部分の手車隊は厳しい旅に耐えて、無事にソルトレーク盆地に到着しましたが、ジャネット・マクブライドがいたマーティン隊とウィ

リー隊の経験した旅はさらに苦しいものでした。季節外れの吹雪に遭い、200人以上の死者を出したのです。非常に大きな犠牲が伴った彼らの旅は、天の御父とその計画を信じる信仰がなければ耐えられないものでした。シオンへ向かって手車を引き、そして押し続けたすべての手車隊の原動力となっていたのも、それと同じ信仰でした。

2006年の手車体験は、この信仰に敬意を表する150周年記念行事の一環として行われました。アイオワシテーステークの会員たちはほかにも、学術シンポジウム、開拓者祭、多宗派デイボーショナルなどを主催しました。手車隊の開拓者だけでなく、彼らに援助の手を差し伸べたアイオワの人々にも敬意を示すことがその目的でした。

預言者に従う

アイオワの丘陵地帯を歩き、長い1日を過ごした青少年たちは、今その体験を振り返っています。エマ・ポーリーは、セミナリーで信仰について学んだときに読んだエテル書第12章を読み返しています。

エマは言います。「自分だったらユタまでずっと歩けたかどうか分かりません。でも、開拓者





にはできました。それは信仰があったからだと思っています。偉大なことはすべて信仰によって達成されるからです。」

手車隊には信仰があったので、ソルトレーク盆地に集合するよというヤング大管長の呼びかけにこたえることができました。彼らの信仰を思うと、アイオワシティーの青少年は、今日の預言者によって与えられる勧告に喜んで従おうという気持ちになります。

キャメロン・ハンセンのような若い男性が預言者に従うための一つの方法は、「神への務め」プログラムを終了することです。キャメロンはこう話します。「開拓者と彼らの払った犠牲について考えるとき、自分も預言者に従えるように達成事項を終わらせたいという気持ちになります。」

預言者に従うことが大切だと感じるこの青少年たちは、日曜日の記念ファイヤサイドで預言者に会えることを楽しみにしています。預言者の声を直接聞くこの機会は記念行事のハイライトになるはずですよ。

初期の開拓者たちもソルトレーク盆地に向かって歩きながら同じ喜びを感じていたに違いありません。一歩足を進めるごとに、指導者とその声を聞く機会が近づくことを知っていたからです。

アイオワシティー第1ワードのスカイラー・ハンセンは「旅の終わりに宝物が待っているようなものです」と言っています。

旅を終えたアイオワシティーの青少年たちはその宝物に近づきましたが、まだ手に入れたわけではありません。翌日の土曜日にはしなければならぬことがたくさんあるからです。



開拓者の苦勞を伝える

ライリー・M・ロリマー

教会機関誌

アイオワシティー第1ワードのビーハイブたちは年齢制限のために手車隊の旅には参加できませんでしたが、記念行事にはぜひ参加しようと思っていました。ある指導者の勧めを受けた彼女たちは、手車祭でボランティアとして、開拓者の経験談を語り聞かせることにしました。

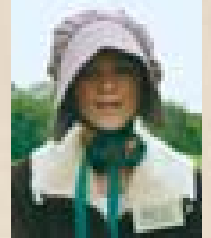
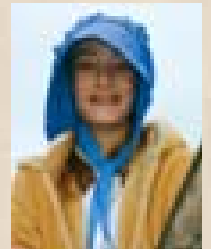
そして、この経験を「成長するわたし」のプロジェクトにすることにしました。手車祭のために準備した開拓者の衣装の一部として、皆が自分でボンネットを縫いました。紹介する経験談には1859年にジョージ・ラウリー手車隊に加わって旅をしたファニー・フライの経験を選び、暗記するまで何時間も練習しました。

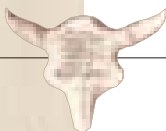
大平原を横断中に家族からはぐれたファニーは、大変な苦勞を堪え忍びました。ある日、気絶したところを自分の手車にひかれてしまいました。彼女が死んだと思った開拓者の姉妹たちは埋葬の準備を始めました。アイオワのビーハイブたちは、ファニーが目を開けたとき姉妹たちがどんなに驚いたか話すところが大好きです。けがにもめげず、ファニーは旅を続け、後に姉と再会することができたのでした。

「家族からはぐれても生き抜いたファニーの勇氣に感心します。ほんとうに強い女性です」とサマー・バーチは語ります。

「問題があっても投げやりにならなかった彼女を尊敬します」と言うのはアリソン・イーグルです。

手車祭の朝、サマーとアリソンは同じビーハイブのミランダ・デッカー、ケンドラ・ドーソン、リサ・エイベル、ジェナ・エイベルとともに、自分たちが尊敬するファニー・フライのような特質を見せました。その日は風が強く、雨も降る寒い日でした。しかし、彼女たちは寒さにめげず陽気にほほえみ、意欲的に働きました。皆で開拓者の衣装を着て、興味を持つ人全員にファニー・フライの話をしようと持ち場に就いたのでした。■





手車隊の歴史



手車隊の歴史的背景を簡単に説明します。

●ブリガム・ヤング大管長は手車でシオンへ旅するよう末日聖徒に指示しました。それは手車が幌馬車に比べて安く、より多くの聖徒たちが旅に参加できるからでした。

●手車隊は1856年から1860年の間に計10隊組織されました。

●聖徒たちはアイオワ州のアイオワシティーまで鉄道を利用しました。装備を整えた後、10隊のうち7隊はアイオワシティーから出発しました。残りはネブラスカ州のフロレンスから出発しました。

●手車隊の大部分はヨーロッパからの移民でした。イングランド、ウェールズ、スコットランド、アイルランド、デンマーク、ノルウェー、スイス、イタリアからやって来た人たちです。

●ウィリー隊とマーティン隊を除けば(この2隊は出発が遅れたために初冬の吹雪に襲われました)、手車で横断中に死亡した人は比較的少数でした。

●手車隊は数々の苦労を経験しましたが、その多くは信仰を固く守り通しました。バンカー隊のプリシラ・M・エバンズはこう語っています。「人々は、手車を引きながら歩くわたしたちをからかいましたが、天気はよかったし道の状態も良好でした。病気にもかかり、疲れ切って夜を迎える毎日でしたが、シオンへ行けるのはやはり栄えあることだと皆思っていました。」■

リロイ・R、アン・W・ヘイフン、Handcarts to Zion (1960年)より

恩返し

2006年、アイオワシティーステーキの会員たちは年間を通じて助けの必要な人々のために町中で熱心に奉仕しました。それは、初期の聖徒たちに助けの手を差し伸べてくれた地域の人々に対して感謝の気持ちを表すためでした。

土曜日には青少年たちにも奉仕の機会が与えられました。アイオワシティー第1ワードのマーク・ハンバートにとって午前6時半は早い時間でしたが、前日の手車の旅のおかげで楽に起床して奉仕に行くことができたそうです。「手車隊に参加して何が大切かを思い出すことができたので、気持ちよく奉仕できました」とマークは語ります。



熱心に奉仕に取り組んだのはマークだけではありません。強い雨にもかかわらず療養所などを訪れたり、パトカーの洗車をしたり、ホームレスのための保護施設で食糧を補充したり、公園の掃除をしたりする青少年の表情は喜びであふれていました。

この奉仕は初期の聖徒たちを援助してくれた町への心ばかりの恩返しでした。

手車隊の歴史を共有する

金曜日に一日中歩き続け、土曜日は奉仕をした後、青少年たちが待ちに待った日曜日がやって来ました。預言者のすぐ近くで話を聞ける日です。家族と一緒に記念ファイヤサイドの席に着いた若い男性と若い女性たちは、手車隊の経験に

ついてさらに学ぶことができ、うれしく思いました。ゴードン・B・ヒンクレー大管長の言葉は彼らの気持ちを奮い立たせ、手車隊の残した信仰を受け継ぐ決心をさせてくれました。大管長はこのように言いました。「大きな犠牲を払ってこの偉大な末日の業の礎^{いしずえ}を築いた人々のことを決して忘れてはなりません。」

アイオワシティーステークに集う現代の開拓者のことを聞いたとしたら、1856年にアイオワシティーを出発した開拓者はとても喜ぶことでしょう。このような混乱の世にあって福音に生きるよう努力する現代の青少年の勇氣は、当時の開拓者を感動させるはずです。

そんな青少年の一人、アンナ・シェイナーも、友人や家族ために義にかなった模範でありたいと努力しています。道をそれずに歩む力を自らの信仰によって得ているアンナはこう言います。「開拓者はわたしのためにあのような経験をしてくれたのですから、わたしにとって大きな意味があります。彼らの歴史はわたしの歴史なのです。」■



フアイヤサイドで
話す
ゴードン・B・
ヒンクレー大管長。
地元で奉仕をした翌日、
青少年は
胸を躍らせながら
預言者の言葉に
耳を傾けました。



聖なる家庭を築くための 3つの道具

家庭で行う日常の活動から、
愛、奉仕、従順、協力を実行する
良い機会が得られます。

シャーリー・R・クライン

ブリガム・ヤング大学家族生活学部准教授

開拓者たちにとって、家庭を守るとは過酷な環境から身を守るための体を張った労働でした。アン・ハウエル・バートの例を考えてみましょう。アンはウェールズからアメリカへ移住し、結婚し、1863年の夏をユタ北部で過ごしました。当時住んでいた家は丘の斜面に穴を掘って作った家でした。若いアンは母親として、家を整え、家族の必要を満たすために身を粉にして働きました。アンの日記にはこう記されています。

「数日前、階段を這って降りて来たガラガラヘビを『のし棒』で殺した。ちょうど夕食の準備中で、赤ん坊は床の上、正確に言えば地べたに寝かせてあった。……心臓が止まりそうだった。……」

……2、3日前、眠っている赤ん坊の顔にハエがとまらないように手で追い払っていると、大きな毒グモが子供の方に這って来るのが目に留まった。慌てて『ほうき』をつかみ、その先でクモを突いた。クモがほうきの柄につかまったので、……急いで火の中へ突っ込んだ。¹

今日、多くの人は家の中に毒グモやヘビが入り込んでこないかと心配する必要はないかもしれませんが、それよりもさらに危険なものがわたしたちを脅かしています。巧妙に忍び込んで来る道徳的な毒グモやヘビの中には、以下のようなものがあります。妊娠中絶、家事放棄、家族一緒に食事をしない、母親と父親の役割の逆転、離婚による結婚の風化、同棲、同性者同士の結婚。このような侵入者を、家にある道具で追

い払えたらよいのですが、「のし棒」や「ほうき」をたくさん失っているのが現状です。

家庭生活の衰退

今日の若い女性に将来の目標を聞くと、当然のように華々しいキャリアを積むという答えが返ってきます。恐らく妻や母親になることを望んではいるのですが、まず仕事の目標を話すのが当然視されているようです。女性がこのような機会を得ることは大切なことだと思いますが、母性や家庭を整えることが、女性に自然に備わっている尊い生き方だという考えは、現代社会からほとんど消滅してしまいました。

それどころか、わたしたちが耳にしているメッセージは、近代的で便利な商品を使えば家事が楽になるのだから、母親も時間を自由に使って自己実現を追求するべきだということです。女性は家庭から解放されるべきだという誤った考えをしばしば目にします。家庭の務めに縛られていたら可能性を開花させることはできないという思いを吹き込む思想もあるほどです。このようなわけで、男性も女性も、日々の家庭生活で行われる大切な事柄から目を背けるように誘惑されています。こうして徐々に、家庭の中から、「のし棒」や「ほうき」が失われるのです。

確かに今日の便利な商品によって、わたしたちは家事から解放されましたが、その反面、家庭生活の質が低下してしまいました。家族全員で食事をするといった、日常的な家族の営みの価値が見過ごされ、いつの間にか、個人や家族の成長にとって大切な機会が失われているのです。シェリル・メンデルソンがその著書の中で述べているように「日々の必要を満たすということ、家庭以外のどこかに依存するようになればなるほど……、[わたしたちの]能力や期待は……失われ、やがて、家族の必要を満たす能力が家庭から消失する」²のです。

スペンサー・W・キンボール大管長(1895 - 1985年)は総



大会で次のように警告しました。「過去において家族の結束を強めるうえで少なからぬ働きをしていた社会規範というのが、次第に影の薄い存在となってきました。悪の力が押し寄せる中で、家庭の価値を深く、また積極的な気持ちで信じている人にしか、自分の家庭を守ることができない日が間違いなく訪れるでしょう。」³

家庭と家族を守る

この「押し寄せる悪の力」から家庭を守り、永遠の目標に向かって前進するにはどうしたらよいでしょうか。

第1に、家庭は本来聖なる場所であり、家庭には目的があるということを見出し、それを風化させないようにしなければなりません。『聖書辞典』(Bible Dictionary)にはこう書かれています。「神聖さにおいて神殿と比べられるのは、家庭だけである。」⁴ 家庭が神殿に比べられるとすれば、どのような要素が家庭をそれほど神聖にするのでしょうか。ある辞書は神聖という言葉を次のように定義しています。「神に属する、またはささげられている。崇敬に値する。ある人、物、または目的のために、聖別または奉獻されていること。侵害または軽視してはならないもの。冒瀆^{ぼうとく}や干渉から適切に保護されるもの。」⁵

この定義を毎日の家庭生活、たとえば、食事や音楽、娯楽、洗濯、家や庭を整えることに当てはめてみてください。ありふれた活動でも、高い目的をもって行うことができますし、決して軽視してよいものではありません。そのような活動を通して、人格を磨き、倫理的な行動を身に付けることができます。日常的な活動を通して、道徳上の真理を学び、正直、忍

耐、慈愛、兄弟愛という特質を伸ばすことができます。日常的な家事やレクリエーションを通して、子供も大人も様々な選択をし、その中で学ぶことができます。子供であれ、伴侶であれ、ルームメイトであれ、必要なことに気づき、喜んで行うことにより、家庭に貢献するという行動を選択することができます。けれども家庭で学ぶ機会がなければ、言われるまで何もせず、面倒くさいことがあると不平をこぼすようになるかもしれません。

家庭での日常の出来事は非常に単純に見えるので、それがどんなに大切か気がつかないことがあります。ちょうど、イスラエルの民がヘビにかまれたときのように、です。ヘビにかまれた人はさおの上に掛けられた青銅のヘビを仰ぎ見るだけで癒されたのですが(民数21:8-9参照)、多くの人はそのように行いませんでした。「その方法が単純であったため、すなわち容易であったために、死んだ人が大勢」いたのです(1ニーファイ17:41)。家庭での日常の活動は単純なことかもしれません。けれども、単純であり、頻繁に繰り返されることだからこそ、個人や家族を築き上げる重要な機会となるのです。

第2に、毎日家族そろって食事をする必要があります。最近では、ちゃんと料理をして、家族で食卓に着いて一緒に食事をするよりも、台所で別々に食事をつまんだり、車の中で簡単なものを食べたり、近くのレストランへ行って手早く食事を済ませることが多くなりました。

わたしたちはそうすることで何を失っているのでしょうか。家族一緒の食事は数々の有益な効果があります。子供たちはより良い栄養を摂取することができますし、⁶ 心理的な問



小 さな子供でも洗濯物をたたむというありふれた行為から、自分の価値を感じられるということが分かるでしょう。そして歳を重ねるにつれて、次第に複雑な仕事をこなせるようになり、子供たちはやりがいのある仕事を選んで行うことによって、自信をはぐくむようになります。

題が起こる可能性が減少し、危険な行為や自滅的な行動も減ります。⁷ 楽しい雰囲気ですべての家族と一緒に食事をするなら、極端なダイエットを防ぐこともできます。⁸

料理を作って一緒に食べるという簡単な行為で、家族の心は一つになります。互いに交わり、家族一人一人のその日の出来事を知るために、手の込んだ料理は必要ありません。料理のお皿を回したり、話したり、相手の言葉によく耳を傾けたりできるように、外部からの邪魔が入らないようにします。家庭では、子供たちは、食べ物を分け合うことを学びます。レストランでは、それぞれが自分の食べ物を注文するので、そのようなことは学べません。いつも家族と一緒に食事をするなら、一日がどのようにして終わるのが分かるので、子供たちは安心します。この時間に、食事やそのほかの祝福に対して神に感謝をささげます。おそらく最も大切なのは、いつも家族で食事をするので、打ち解けた雰囲気の中で、福音について、気軽に語り合えるということです。

第3に、家族と一緒に活動することは、この世界的にも霊的にも影響を及ぼすことを覚えておきましょう。 神の戒めはすべて霊にかかわるものです。現世のものは一つもありません（教義

と聖約29：35参照）。この世的であるとは、この世だけで終わるという意味です。神の戒めは永遠に続きます。地上での行いは永遠の結果を持つことを覚えて、その知識に従って家庭生活を営まなければなりません。現在の自分と来世の自分は、現在の自分の行為によって形作られます。夫婦が「互いに愛と関心を示し合うとともに、子供たちに対しても愛と関心を示す」⁹ なら、自分自身に対しても、子供たちに対しても、永遠に進歩する道を歩むための大切な特質を身に付ける機会を設けていることになるのです。

家庭で人生の教訓を得る人は、強い人格を築くことができます。家族研究家のエノラ・エアードは、自制心や礼儀、道徳心、自立心をはぐくめるかどうか、また、労働について学べるかどうかは、家庭生活にかかっていると述べています。¹⁰ 「両親からしつけを受けない子供は、たとえ知恵をつけ、教育を修め、成功したとしても、利己的で、自己中心的で、本質的には洗練されていない、人を思いやることのできない人間になってしまうかもしれない」¹¹ のです。

日常生活の価値を正しく理解してください。そうすれば、洗濯物をたたむというありふれた行為を通して、小さな子供でも自分の価値を

感じられることが分かるでしょう。幼い子供でも靴下を合わせたり、洗濯物を濃い色と薄い色に分けたり、タオルをたたんだりして、成し遂げたことを認めてもらうことができます。そして歳を重ねるにつれて、次第に複雑な仕事をこなせるようになり、やりがいのある仕事を選んで行うことによって、自信をはぐくむようになります。

家庭に光をともし

家族の責任を果たすことにより、従順を通して光と真理が得られることを体験することができます。イエス・キリストは世の光です。主に従い、戒めを守ると、主の光の中を歩むことができます。主に従えば従うほど、それだけいっそう光と真理を得ることができます。親が自分の責任をしっかりと果たせば、子供は従順の模範を目にすることができます。例えば、家事を規則正しくこなせるようになると、それほど重要でない小さな事柄でも、きちんと正確に行う習慣が、親にも子にも身に付きます。こうして親子そろって戒めをよく守り、神聖な聖約を交わすために備えられていくのです。

教会が組織されたときに与えられた、基本的で重要な教えの中に、次の勧告がありました。「家庭におけるすべての義務を果たすように」しなさい(教義と聖約20:47, 51)。その3年後、教会の指導的な立場にあった数人の兄弟たちは、家族の義務を果たさなかったことで叱責を受けています(教義と聖約93:41-50参照)。今日も、「家族——世界への宣言」の中で、聖なる家族の義務が再度強調されています。

家族の義務という言葉聞いてまず頭に浮かんでくるのは、家族の祈り、家庭の夕べ、聖文を読むことなどかもしれません。しかし、食事や衣服に関する事柄を通して、愛、奉仕、従順、協力が実践できることも忘れてはなりません。このような日々の単純な行いの中に、大きな力があるのです。

家族皆で食事をすることや、一緒に健全な娯楽を楽しむといった、日常のありふれた活動を通じて主に近づくことは可能でしょうか。もちろんです。あなたはどれくらいの光を得たいですか。主は「光を受け、神のうちにいつもいる者は、さらに光を受ける」と約束しておられます(教義と聖約50:24)。そして、こうも約束しておられます。「[わたしは]忠実な者に対して、教訓に教訓、規則に規則を加えるからである。そして、わたしはこれによってあなたがたを試み、あなたがたを試そう。」(教義と聖約98:12)

小さいことに忠実であることを示してください。そうすれば、大きなことが増し加えられるでしょう。家庭にあって、学び、実践するということは、神聖な機会です。それは、霊的に



成長する機会であり、救い主に近づく機会なのです。そのようにして、生涯を通じて、少しずつ段階を経ながら成長するのです。そして家庭こそ、わたしたちが神に似た個人、家族になれるように、何度も何度も、繰り返して、成長の機会を与えてくれる場なのです。■

2005年4月5日、ブリガム・ヤング大学で行われたディボーションの説教から

注

1. ソフィー・バレンタイン, *Biography of Ann Howell Burt* (1916年), 24-25
2. *Home comforts: The Art and Science of Keeping House* (1999年), 7-8
3. 「家族は永遠に」『聖徒の道』1981年4月号, 3参照
4. *Bible Dictionary*, "Temple," 781
5. *The World Book Dictionary* (1984年度版), "sacred," 1830
6. タミ・M・ビデオ, キャロリン・K・マニング共著, "Influences on Adolescent Eating Patterns: The Importance of Family Meals," *Journal of Adolescent Health*, 2003年5月, 365-373参照
7. マーラ・E・アイゼンバーグ, レイチェル・E・オルソン, ダイアン・ニューマーク-スタイナー, メアリー・ストーリー, リンダ・H・ペアリンガー共著, "Correlations between Family Meals and Psychosocial Well-Being among Adolescents," *Archives of Pediatrics and Adolescent Medicine*, 2004年8月, 792-796参照
8. ダイアン・ニューマーク-スタイナー, メラニー・ウォール, メアリー・ストーリー, ジェーン・A・フルカーソン共著, "Are Family Meal Patterns Associated with Disordered Eating Behaviors among Adolescents?" *Journal of Adolescent Health*, 2004年11月, 350-359参照
9. 「家族——世界への宣言」『リアホナ』2004年10月号, 49
10. "On Rekindling a Spirit of 'Home Training': A Mother's Notes from the Front," *Taking Parenting Public: The Case for a New Social Movement*, シルビア・A・ヒューレット, ナンシー・ランキン, カーネル・ウエスト共編 (2002年), 13-28参照
11. "On Rekindling," 19



すべての神権時代の中で 最も大いなる この神権時代

十二使徒定員会

ジェフリー・R・ホランド長老

世界中で起きている不穏な出来事やわたしたちが直面している問題の幾つかについてお話したいと思います。2001年9月11日以降、わたしたちはいやおうなく国際間の出来事にますます脅威を覚え、警戒の度を強めています。「テロ」という言葉がほとんど毎日のように周囲を飛び交っています。世の終わりや末日の世で生活していることに関連して、これらがいったいどのような意味を持つのだろうかと考えている人は決して少なくありません。「今こそ、救い主が再臨されるときであって、これらは皆再臨に先だって起きると預言されたことなのだろうか」と多くの人が考えています。

実際、9月11日の出来事から間もなくして、ある宣教師が率直かつ誠実にこう尋ねてきました。「ホランド長老、これらは終わりの時のしるしでしょうか。」わたしは、彼の真剣な面持ちと恐怖を浮かべた目を見て、こう言いました。「そうです、長老。わたしたちは終わりの時に生きています。けれども、これは別に今に限ったことではありません。約束された救い主の再臨は預言者ジョセフ・スミスが1820年に最初の示現を受けたときから始まっているのです。終わりの時を迎えてから久しいのです。」

わたしは親しみを込めて握手すると、この宣教師と別れました。彼は微笑を浮かべ、一連の出来事について納得した様子で、それまでより少し頭を高く上げて去っていきました。

わたしはこの青年が尋ねたことの真意をよく理解しているつもりです。彼が気にかけていたのは「無事に伝道を終えられるでしょうか。教育を受けることに意味があるのでしょうか。結婚を望むことができるでしょうか。自分に未来はあるのでしょうか。自分の行く手に幸福を見いだすことができるでしょうか」ということでした。そこで、長老に答えたことを皆さんに申し上げます。「はい、もちろんです。これらのすべての質問に対して、そうお答えします。」

勝利の時について、すなわち主の再臨や、地を揺るがす出来事がいつ起きるのか、わたしは知りません。それはだれも知りません。天の御使いたちさえも知らないといふ救い主は言われました(マタイ24:36参照)。

わたしたちはしるしに注意を払い、可能なかぎり忠実な生活を送り、またあらゆる人が恵みと守りを受けられるように福音を分かち合う必要があります。けれども、再臨とそれに伴う出来事がわたしたちの前途のどこかで起きるかもしれないからと言って、それにおびえて消極的



ただ漫然と未来に
立ち向かうのではなく、
未来を受け入れ、
築き上げ、
未来を愛し、喜び、
与えられる機会を
楽しむことを
神は望んでおられます。



上から——
ブラジル・
クリティバ神殿、
2006年12月現在
建築中。
フィンランド・
ヘルシンキ神殿、
2006年10月22日
奉献。
イリノイ州
ノーブー神殿、
2002年6月27日
奉献。
現在稼働中の
神殿は124、
建築中または
建築を発表された
神殿は11ある。

になってはなりません。生きていくことをやめるわけにはいきません。むしろこれまで以上に充実した生活を送る必要があります。なんとと言っても、現在は、時満ちる神権時代なのです。

信仰を持ち、恐れを振り払う

将来に不安を抱えている方々に二つのことをお話しします。愛を込めて、心からお話しします。

第1に、恐怖と恐怖の父(サタン)のために信仰を捨てたり、忠実な生活から離れたりするようなことがあってはなりません。いつの時代でも人は皆、信仰をもって歩み、不確実なところへ常に足を踏み入れなければなりません。これは計画の一部です。忠実でありさえすればよいのです。神がその責任を負ってくださいます。神はあなたの名前と必要を御存じです。

主イエス・キリストを信じる**信仰**——これは福音の第一の原則です。わたしたちは前に向かって歩まなければなりません。神は、あなたが絶えず前進し、生き、喜びを得られるように、神を信じる十分な信仰と決意と信頼を寄せることを望んでおられます。ただ漫然と未来に立ち向かうのではなく、未来を受け入れ、築き上げ、未来を愛し、喜び、与えられる機会を楽しむことを望んでおられます。

神はいつでも、あなたの祈りにこたえ、あなたの夢を実現する機会を待っておられます。けれども、あなたが祈らなければ、夢を描かなければ、神はそうすることがおできになりません。つまり、あなたが信じなければ、神はこたえることがおできにならないのです。

慰めに関する二つの聖句

危険に満ちた時代に生きる人々に向けられた聖句を二つ紹介します。

最初は教義と聖約第101章からです。この啓示はミズーリに集合した聖徒たちが激しい迫害に苦しめられていたときに与えられました。それは最も困難で危険な時代であり、教会がこれまでに経験した「恐怖のどん底」の時期と言っても過言ではないでしょう。

この恐怖の時にあってもなお、主は民にこう言われました。

「シオンについて心に慰めを得なさい。すべての肉なるものはわたしの手の内にあるからである。安らかにして、わたしが神であることを知りなさい。

シオンの子らが散らされても、シオンがその場所から移されることはない。

生き残っている心の清い者は帰って来る。彼らとその子孫は、シオンの荒れた所を築き上げるために、永遠の喜びの歌を歌いながら、彼らの受け継ぎの地にやって来るであろう。

すべてこれらのことが起こるのは、預言者たちの述べたことが成就するためである。」(教義と聖約101：16-19)

ですから、シオンについて心に慰めを得てください。シオンの最も基本的な定義は「心の清い者」(教義と聖約97：21)です。もしあなたが心を清く保っているならば、あなたとあなたの子供たち、そして孫たちは永遠の喜びの歌を歌いながらシオンを築くことでしょう。そして、あなたはその場所から移されることはないでしょう。

もう一つ引用するのは、主が十字架につけられる直前、弟子たちが恐怖と混乱と迫害に瀕していたとき、救い主が彼らにかけられた言葉です。全員に向けて与えられたこの世で最後の勧告でした。「これらのことをあなたがたに話したのは、わたしにあって平安を得るためである。あなたがたは、この世ではなやみがある。しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝っている。」(ヨハネ16：33)

ですから、災いに満ちた世の中にあっても、信仰を忘れてはなりません。安らぎを与えてくれるほかの約束や預言を心に留めて、これまで以上に大胆に勇気をもって立派に生き抜きましょう。

キリストは世に打ち勝ち、わたしたちのために道を用意してくださいました。主は今の時代にもこうおっしゃっています。「それゆえ、腰に帯を締めて、備えなさい。見よ、王国はあなたがたのものであり、そして敵は勝利を得ないであろう。」(教義と聖約38：9)

2,000

年以上の昔、神殿は
旧世界に一つと
モルモン書の歴史中に

二つか三つか存在しませんでした。

けれども現在では、神殿数は急速に増え、
数えるのが困難なほどです。

3人の預言者の言葉

この聖句に基づいて、わたしたちの生きている時代について大きな意味を持つ第2の点を紹介したいと思います。わたしたちは人類に授けられた最も大いなる神権時代にこの世へやって来ました。したがって、その機会を最大限に生かす必要があります。

預言者ジョセフ・スミス(1805 - 1844年)の言葉で、わたしの大好きなものがあります。「いつの時代にも神の民はシオンの建設に大いなる関心を抱いていた。預言者、祭司、王たちが、特別な喜びをもって思い描き、また、楽しみに待ち望んでいたのが、わたしたちの生きているこの時代であった。天からの喜びのおとずれに胸を躍らせ、この時代を詩に歌い、文章に表し、また預言した。……わたしたちは末日の栄光をもたらすように神から〔選ばれた〕恵まれた民である。」¹

ウィルフォード・ウッドラフ大管長(1807 - 1898年)も同じようなことを述べています。「全能の神がこの民とともにおられます。自らの務めを果たし、神の戒めを守るならば、必要な啓示はすべて必ず与えられるのです。

……わたしは……命の

あるかぎり、自らの務

めを果たしたいと思

います。すべての

末日聖徒にも自らの務めを果たしてほしいと思います。……彼らには偉大ですばらしい責任が課せられています。神とすべての聖なる預言者の目がわたしたちに注がれています。わたしたちは世界の創造以来、常に語られてきた大いなる神権時代に生きています。わたしたちは……神の力と戒めによって……集合しています。神の業を行っています。……さあ、召しを果たそうではありませんか。」²

最後に、多くの問題に取り囲まれている時代にわたしたちを導いている現在の預言者ゴードン・B・ヒンクレー大管長の言葉を分かち合います。「この世代に生きるわたしたちは、すでに過ぎ去った全人類の最後の収穫です。ただ単にこの教会の会員として名を連ねるだけでは不十分です。厳粛な義務が課せられています。この義務を正面から受け入れ、取り組もうではありませんか。

すべての人を慈しみ、キリストに真に従う者として生活し、悪に対して善で報い、模範によって主の道を教え、主が指し示された広範囲にわたる奉仕の業を達成しなければなりません。

過去のすべての危険な時代を経てもたらされた、光と理解、そして永遠の真理という栄光に満ちた賜物にふさわしい生活を送ることが



できますように。これまで地上に生きたすべての人の中で、どういうわけか、わたしたちはこの特異な驚嘆すべき時代に生を受けました。常に感謝しましょう。そして何より、忠実であってください。」³

これらの預言者はそれぞれの管理する時代に、その時代の恐怖や、末日に起きる災いに焦点を絞るのではなく、機会や祝福、特にすべての神権時代の中で最も大なるこの神権時代に与えられている特権を生かす責任について語ってきました。わたしは預言者ジョセフ・スミス言葉の中で、「預言者、祭司、王たちが、特別な喜びをもって思い描き、また、楽しみに待ち望んでいたのが、わたしたちの生きているこの時代であった」というくだりが好きです。彼らは何をそれほど喜んだのでしょうか。もちろん、恐怖や悲劇に思いをはせていたわけではありません。ウッドラフ大管長はこう語りました。「神とすべての聖なる預言者の目がわたしたちに注がれています。わたしたちは世界の創造以来、常に語られてきた大なる神権時代に生きています。」

ヒンクレー大管長の言葉を繰り返します。「これまで地上に生きたすべての人の中で、どういうわけか、わたしたちはこの特異な驚嘆すべき時代に生を受けました。常に感謝しましょう。そして何より、忠実であってください。」

皆さんはこれらの言葉からどのような印象を受けるでしょうか。わたしは自分たちの生きている時代について持っていた不必要な不安が一瞬にして消え去りました。そして、へりくだる気持ちと霊的な感動を覚え、与えられている機会に対する意識が高められました。神は御自身の世界と教会、指導者たちを見守っておられます。そして、確かにあなたに目を注いでおられます。常に「心の清い者」、忠実な者であり続けましょう。そうするとき、あなたはどれほど豊かに祝福されるでしょうか。あなたの子供や孫たちはどれほど大きな恵みを受けることでしょうか。

暗黒と化した世界へ福音の光を携えていくことにより、わたしたちはどれほど大きな助けを得てきたことでしょうか。現在、宣教師の数は約5万3,000人に達しています。これほど多くの宣教師はかつて、どの時代にもいませんでした。宣教師が帰還すると彼らに代わってほかの宣教師が出て行くため、この数は2年ごとに更新されます。けれども、わたしたちはもっと多くの宣教師を必要としています。

2,000年以上昔、神殿は旧世界の一つとモルモン書の歴史中に二つか三つしか存在しませんでした。けれども現在では、神殿数は急速に増え、数えるのが困難なほどです。

コンピューターのもたらした奇跡によって、家族歴史の文書化と死者のための救いの儀式の執行が加速されています。さらに近代の交通手段です。これによって中央幹部は世界中を巡って、全地のあらゆる聖徒に主について証を述べることができます。また、訪れることのできない場合には、衛星放送によって、聖文に

記されているように、「送る」ことができます(教義と聖約84:62参照)。

教育、科学、テクノロジー、通信、交通手段、医学、栄養、そして啓示など、わたしたちの周りのあらゆる要素を考えると、預言者モロナイが旧約の預言者ヨエルの言葉を引用して少年預言者ジョセフ・スミスに繰り返し述べたことの意味を実感し始めることでしょう。すな

終 わりの時に神は神の御霊を「すべての肉なる者」に注がれます。また、全人類はイエス・キリストの福音の回復によりあらゆる分野にもたらされる光を通して祝福にあずかります。

わち、終わりの時に神は神の御霊を「すべての肉なる者」に注がれるのです。また、全人類は、イエス・キリストの福音の回復によりあらゆる分野にもたらされる光を通して祝福にあずかります(ヨエル2:28; 強調部分付加。ジョセフ・スミス—歴史1:41も参照)。

この神権時代に受けているこれらすべての祝福について考えているとき、わたしたちはふと立ち止まって、天の御父にこう語りかけます。「あなたは何と偉大な御方なのでしょう。」⁴

婚 宴

神権時代についての考察にもう一つの要素を加えてみましょう。わたしたちの神権時代はすべての神権時代の最後で最も大いなるものなので、わたしたちの時代にあらゆることは最終的に頂点に達し、成就します。このため、以前の時代の教会員にはなかった一つの特別な責任がわたしたちに課せられています。神の小羊は主の主、王の王として自ら、勝利の栄光のうちに、福千年の務めを果たされます。わたしたちには、そのような神の小羊をお迎えするために、神の小羊の教会を整える責任があるのです。

わたしたちは教会として、個々の教会員として、キリストをお迎えし、キリストにまみえるにふさわしく、またキリストに受け入れられ、御手に抱いていただくにふさわしくなる責任があり

ます。その聖なる時に示すわたしたちの生きてきた生涯はキリストにとっても価値のあるものでなければなりません。

聖典の言葉によれば、わたしたちは花婿(救い主)のために花嫁(教会)を整え、婚宴に招かれるにふさわしくならなければなりません。それは時ははじめより定められています(マタイ22:2-14; 25:1-12; 教義と聖約88:92, 96参照)。

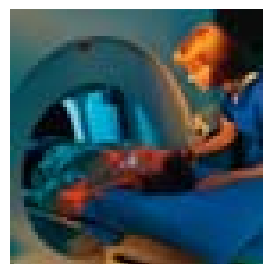
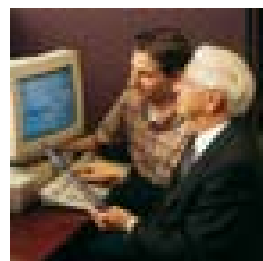
このように、わたしは未来への恐怖よりも、長い間預言されてきた日のために、救い主に御自身の教会をわたしたちが差し出すための、自分の生活を整える(そして教会員の生活を整えるようにできる限り助ける)という途方もなく大きな責任をひしひしと感じています。

わたしはこの日がいつ来るのか知りません。だれがその場において目にするのかも知りません。けれども、このことははっきりと知っています。主の教会の会員は主に受け入れられたいと望むならば、キリストが来られるときに、外見はもとより、行動もキリストの教会員らしい人となっていなければなりません。主の業を行い、主の教えに従って生活していなければなりません。主はすぐに、そして容易にわたしたちがまことに主の弟子であることに気づかれることでしょう。

ヒンクレー大管長が次のように語ったのはまさしくこのためです。「この世代に生きる〔わたしたち、すなわちあなたやわたし〕は、ただ単にこの教会の会員として名を連ねるだけでは不十分です。キリストに真に従う者として生活し……なければなりません。」今は末日です。あなたやわたしは最善を尽くしてまことの末日聖徒にならなければなりません。

自信をもって生活する

あなたとあなたの子孫にとって幸せな未来がこの末日に待っているでしょうか。間違いなくそうです。末日の災いについて警告され、預言されていることが成就するとき、苦難に見舞われるでしょうか。もちろん、そのようなことになるでしょう。キリストの岩の上に基を築いている人々は、大風と雹、旋風の中に送られる悪



**末日の人類に
恵みを与えている知識と
テクノロジーとして、
DNAの研究、
コンピューターを
活用した
家族歴史探求、
先進医療技術などが
挙げられる。**



**最高の
末日聖徒となるために、
わたしたちは
堅固な家族を築き、
個人の靈性を高め、
人々に
奉仕することによって、
主の業に携わることが
できるし、
そうしなければ
なりません。**

魔の矢に堪えられるでしょうか。彼らは堪えることでしょう。確かな約束を受けているからです。それは主の約束です。「あなたたちは堅固な基であるその岩の上に建てられており、人がその上に基を築くならば、倒れることなどあり得ないからである。」(ヒラマン5：12)

わたしの愛を皆さんにお伝えします。神は生きておられるだけでなく、わたしたちを愛しておられることを証します。神はあなたを愛しておられます。神がなさるすべてのことはわたしたちの益となり、守りとなります。世の中には邪悪と悲しみがありますが、邪悪や危害が神からもたらされることはありません。神はわたしたちの完全な御父であり、嵐の避け所を見つげられるようにわたしたちを助けてくださいます。

イエスはキリストであり、神の聖なる独り子であられるばかりでなく、生きておられ、わたしたちを愛しておられること、主の贖いの犠牲の力と功德によって、わたしたちも永遠に生きられることを証します。

この教会は地上における神の教会であり王国です。真理が回復されました。自信を持ち、樂觀的であり、信仰を持ち、敬虔な思いをもって生活しましょう。人生の諸問題に真剣に取り組むと同時に、それらにおびえたり、落胆したりすることのないようにしてください。末日の聖徒たちが受ける喜びを感じてください。不安や絶望によって萎縮することのないようにしましょう。

「小さい群れよ、恐れてはならない。……あらゆる思いの中で〔キリスト〕を仰ぎ見なさい。疑ってはならない。恐れてはならない。」(教義と聖約6：34, 36)

「あなたがたは……父がどれほどの大いなる祝福を御手の中に持っていて、あなたがたのために備えておられるかをまだ理解していない。……元気を出しなさい。……王国はあなたがたのものであり、その祝福もあなたがたのものであり、また永遠の富もあなたがたのものである。」(教義と聖約78：17-18)

主の教会の会員は
主に受け入れられたいと望むならば、
キリストが来られるときに、
外見はもとより、行動もキリストの教会員らしい人
となっていなければなりません。

わたしの祝福と愛をお伝えするとともに、これまで述べてきたことが真実であることを、使徒として証いたします。■

2004年9月12日、
教会教育システム
ファイヤサイドにおける
説教を基に編集

注

1. *History of the Church*, 第4巻, 609-10
2. ジェームズ・R・クラーク編, *Messages of the First Presidency of The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints*, 全6巻(1965-1975年), 第3巻, 258
3. 「明るい夜明けだ」『リアホナ』2004年5月号, 84
4. 「わが主よ、わが神」『賛美歌』44番



聖さを実践することによって、 神の御手に使われる者となる



以下のメッセージから訪問先の姉妹たちの必要に合った聖句や教えを祈りの気持ちで選び、読んでください。自分の経験や証を伝え、あなたが教える人々にも同様に分かち合うように勧めてください。

聖い行いを実践するとはどのようなことでしょうか。

**大管長会第二顧問
ジェームズ・E・ファウ
スト管長**——「聖さは霊に

力を与えてくれます。聖くなるには信仰を持ち、神の律法と儀式に従う必要があります。そうすれば、神はわたしたちの信仰により、心を清めてくださいます。俗悪で低俗なものが心からぬぐい去られるのです。神の御心に従い聖くなると、何が間違っているのかが直感的に分かるようになります。……

……なによりも、個人の聖さと家族の聖さを守るために、神殿に参入しなければならないのです。

神殿のほかに、この地上にもう一つ神聖な場所があります。言うまでもなく、それは家庭です。……

……主が一人一人を祝福して下さり、皆が聖なる場所に立ち、聖さを主にささげるといふ特別な責任を果たすことができますように。聖なる場所に立つならば、自分と家族に必要な、霊的な守りが得られるのです。」「(聖な

場所立つ)『リアホナ』2005年5月号, 62, 67-68)

**十二使徒定員会 ディーター・F・
ワークトルフ長老**——「生活の中でキリストのような属性を磨いていくとい

うのは、決して容易なことではありません。……

キリストのような属性がほんとうに身に付いたかどうかは、夫、妻、父親、母親、息子、娘として、生活に目に見える形で現れているかどうかで分かります。また、友人と接するとき、仕事や事業に携わるとき、レクリエーションに参加しているときもそうです。少しずつ『[主の]前に聖さを尽くして行動する』力が増してくると(教義と聖約43:9)、自分の成長に気づきます。そして、周囲の人々も認識してくれます。」「(キリストのような属性——翼の揚力となる風)『リアホナ』2005年11月号, 102)

どのようにすれば、聖い行いを実践し、神の御手に使われるものとなることができますか。

**前中央扶助協会第一顧問 キャス
リーン・H・ヒューズ**——「わたした

ちの中で慈しまれ、見守られ、慰められ、神にかかわる事柄について導きを受けたいと切望しない人がいるでしょうか。どのようにしてそれが実現するのでしょうか。その時々を示される親切な行為、愛の表現、思いやりある言葉、差し伸べられる手を通してです。今日わたしは、そのような慈愛に満ちた行為を受ける人ではなく、毎日そうした聖い行いを実践しなければならないわたしたち皆にお伝えします。イエスキリストのようになるために、預言者ジョセフは『人に対して心を広くしなければならぬ』と教えました。」「(わたしたちすべてがともに天で座に着けるように)『リアホナ』2005年11月号, 110)

**前中央扶助協会会長 ボニー・D・
パーキン**——「聖約すなわち天の御父との間で交わされる約束はわたしたちが永遠の進歩を遂げるうえで不可欠です。天の御父は、段階を追って御業に参加させることにより、わたしたちが御父のようになるための訓練を施されます。わたしたちはバプテスマを受けるときに、心を尽くして神を愛し、自分を愛するように兄弟姉妹を愛すると聖約します。神殿においてはさらに、従順であり、利己心を捨て、忠実であり、高潔で、慈悲深くあることを聖約します。犠牲を払い、持っているすべてをささげると聖約します。……

主はわたしたちに『聖い心』をもってすべてのことを行うよう求めておられます(教義と聖約46:7)。聖さは聖約に忠実な生活から生まれます。……聖さは『わたしがここにいます。わたしをお遣わしてください』という言葉をかけるよう促します。」「(聖い心で)『リアホナ』2002年11月号, 103, 105) ■



彫刻：直野のり子、写真：タレント、挿入：写真、イラスト：ARTBEATS

主のたとえ

イエスが
たとえで教えられたのは、
その意味を隠すためでした。
こうすることにより、
たとえを聞く人たちは、
自らの信仰と理解力に応じて
神聖な真理を
学び取ることができるのです。



© PROVIDENCE COLLECTION

上—「タラントのたとえ」ヘンリー・コ
ラー画。「主人は〔一タラントを地の中に隠した〕
彼に答えて言った、『悪い怠惰な僕よ、……
さあ、そのタラントをこの者から取りあげ〔なさい。〕』(マタイ25:26, 28。14-30も参照)





左—「種まきのたとえ」ジョージ・ソーパー画。「見よ、種まきが種をまきに出て行った。……

まいているうちに、道ばたに落ちた種があった。……

ほかの種は土の薄い石地に落ちた。……

ほかの種はいばらの地に落ちた。……

ほかの種は良い地に落ち[た。]」(マタイ 13:3-5, 7-8。3-23も参照)

上—「いなくなった羊を救う」ミネルバ・K・タイカート画。「あなたがたのうちに、百匹の羊を持っている者がいたとする。その一匹がいなくなったら、九十九匹を野原に残しておいて、いなくなった一匹を見つけるまでは捜し歩かないであろうか。

そして見つけたら、喜んでそれを自分の肩に乗せ、

家に帰ってきて友人や隣り人を呼び集め、

『わたしと一緒に喜んでください。いなくなった羊を見つけましたから』と言うであろう。

よく聞きなさい。それと同じように、罪人がひとりでも悔い改めるなら、悔改めを必要としない九十九人の正しい人のためにもまさる大きいよろこびが、天にあるであろう。」(ルカ 15:4-7)



上—「五人は思慮深い者であった」ウォルター・レーン画。「そこで天国は、十人のおとめがそれぞれあかりを手にして、花婿を迎えに出て行くのに似ている。

その中の五人は思慮が浅く、五人は思慮深い者であった。

思慮の浅い者たちは、あかりは持っていたが、油を用意していなかった。

しかし、思慮深い者たちは、自分たちのあかりと一緒に、入れものの中に油を用意していた。……

夜中に、『さあ、花婿だ、迎えに出なさい』と呼ぶ声がした。……

ところが、思慮の浅い女たちが、思慮深い女たちに言った、『あなたがたの油をわたしたちにわけてください。……』

すると、思慮深い女たちは答えて言った、『わたしたちとあなたがたに足りるだけは、多分ないでしょう。』(マタイ25:1-4, 6, 8-9。1-13も参照)

右—「敵のまいた毒麦」ジェームズ・ティソン画。「天国は、良い種を自分の畑にまいておいた人のようなものである。

人々が眠っている間に敵がきて、麦の中に毒麦をまいた。……

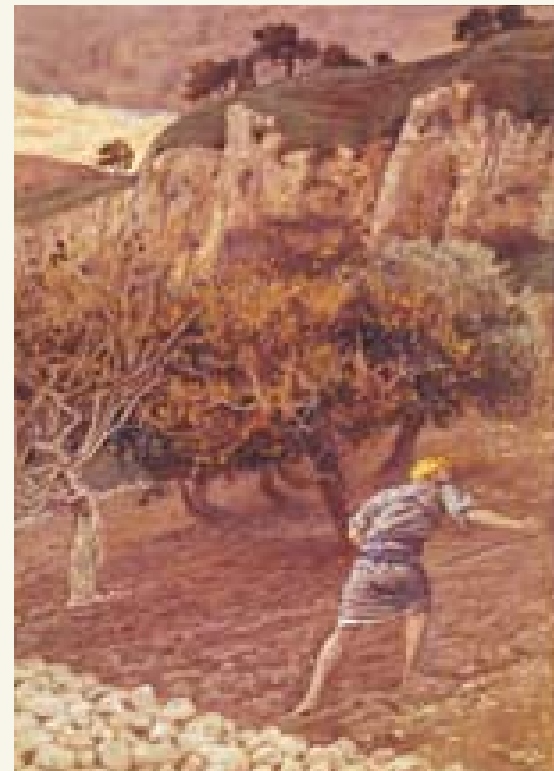
芽がはえ出て実を結ぶと、同時に毒麦もあらわれてきた。

僕たちがきて、家の主人に言った、『ご主人様、畑におまきになったのは、良い種ではありませんでしたか。……

主人は言った、『それは敵のしわざだ。……

収穫まで、両方とも育つままにしておけ。……まず毒麦を集めて束にして焼き、麦の方は集めて倉に入れてくれ、と言いつけよう。』

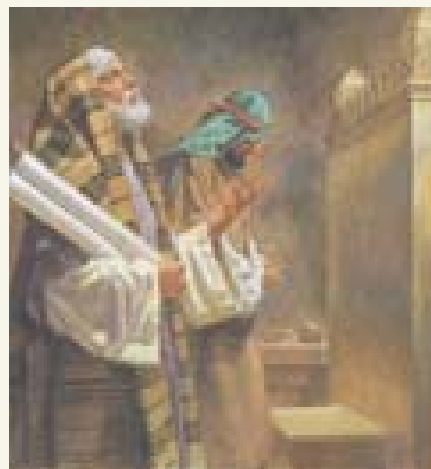
(マタイ13:24-28, 30)



右—「**パリサイ人と取税人**」**ロバート・T・バレット**画。「パリサイ人は立って、ひとりでご祈った、『神よ、わたしはほかの人たちのような貪欲な者、不正な者、**姦淫**をする者ではなく、また、この取税人のような人間でもないことを感謝します。……』」

ところが、取税人は遠く離れて立ち、目を天にむけようとしなくて……言った、『神様、罪人のわたしをおゆるしてください』と。

あなたがたに言う。神に義とされて自分の家に帰ったのは、この取税人であって、あのパリサイ人ではなかった。おおよそ、自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされるであろう。(ルカ18:10-11, 13-14。9-14も参照)



上—「**良いサマリア人**」**ギュスターブ・ドレ**画。「ところが、あるサマリア人が旅をしてこの人のところを通りかかり、彼を見て気の毒に思い、

近寄ってきてその傷にオリーブ油とぶどう酒とを注いでほうたいをしてやり、自分の家畜に乗せ、宿屋に連れて行って介抱した。」(ルカ10:33-34。25-37も参照)

左—「**放蕩息子**」**クラーク・ケリー・ブライス**画。「そこで立って、父のところへ出かけた。まだ遠く離れていたのに、父は彼をみとめ、哀れに思って走り寄り、その首をだいて接吻した。」(ルカ15:20。11-32も参照) ■



俗悪な言葉

知性

言葉遣いで あなたのことが分かる

口から出る言葉は、人格を雄弁に物語ります。

十二使徒定員会

L・トム・ペリー長老

新 約聖書のすばらしい登場人物の中でも、わたしはペテロに特別な魅力を感じます。ペテロはこの世的な事柄を克服するために、またイエス・キリストの福音の証人となり、教師となるために、大変な努力をしました。ペテロと救い主との関係、特に主が裁かれ、十字架の刑に処せられる直前の二人の関係から、興味深い教訓が得られます。

「イエスは言われた、『よくあなたに言うておく。今夜、鶏が鳴く前に、あなたは三度わたし

を知らないと言うだろう。』

ペテロは言った、『たといあなたと一緒に死なねばならなくなっても、あなたを知らないなどとは、決して申しません。』(マタイ 26: 34-35)

言葉遣いであなたのことが分かる

そして、あの極めて重大な瞬間が訪れました。ペテロは救い主と行動を共にしませんでした。救い主を愛していたので、裁きの場で行われることを見るために、救い主のおられる所まで行きました。

「ペテロは外で中庭にすわっていた。するとひとりの女中が彼のところにきて、『あなたもあのガリラヤ人イエスと一緒にだった』と言った。

するとペテロは、みんなの前でそれを打ち消して言った。『あなたが何を言っているのか、わからない。』

そう言って入口の方に



敏感

思いやり

無礼



テロも
 言葉遣い
 によって、
 何者であるか、また
 どこで育てられたのか
 が明らかになって
 しまいました。
 話す言葉により、
 ひととなりや、生い立ち、
 生き方まで
 明らかになります。
 考えていることや、
 内に秘めた感情さえも
 あらわになるのです。

出て行くと、ほかの女中が彼を見て、そこにいる人々にむかって、『この人はナザレ人イエスと一緒だった』と言った。

そこで彼は再びそれを打ち消して、『そんな人は知らない』と誓って言った。

しばらくして、そこに立っていた人々が近寄ってきて、ペテロに言った、『確かにあなたも彼らの仲間だ。言葉づかいであなたのことが分かる。』

彼は『その人のことは何も知らない』と言って、激しく誓いはじめた。するとすぐ鶏が鳴いた。

ペテロは『鶏が鳴く前に、三度わたしを知らないと言うであろう』と言われたイエスの言葉を思い出し、外に出て激しく泣いた。(マタイ 26:69-75)

パスポートの顔写真や、署名、指紋によって、個人が識別されるように、ペテロもその言葉遣いによって、何者であるか、またどこで育てられたのかが明らかになってしまいました。同じ

ように、人々は皆さんを、話す言葉によって判断し、分類します。話す言葉により、ひととなりや、生い立ち、生き方まで明らかになります。考えていることや、内に秘めた感情さえもあらわになるのです。

ショッキングな言葉

現代は、恐らくどの時代よりも、不敬で俗悪な言葉が使われている時代です。かつてわたしは、不釣り合いな言葉が、予期せぬ人の口から出たために周りの人が大変ショックを受けるという経験をしました。第二次世界大戦中にわたしは合衆国海兵隊の新兵訓練所にいました。もちろん、仲間の海兵隊員の言葉は、決してまねたいものではありませんでした。伝道から帰還したばかりだったわたしは、彼らよりも良い言葉遣いを保つ決意をしました。どんなに取るに足りない、だれでも使うような言葉でも下品な言葉は一切口にしないように常に努力しました。

ある日、わたしたちは、ライフル射撃場で認定試験を受けていました。射距離100ヤード(90メートル)、200ヤード(180メートル)、300ヤード(275メートル)でのわたしの成績は良好でした。それからさらに離れ、500ヤード(450メートル)の地点に来ました。わたしは、標的の真ん中に当てる必要はありませんでした。中心から少し外れても、そこそこの点数を取れば、特級射手として認定されたのです。わたしたちの小隊は、どこよりも抜きんでて射撃の認定試験で最高得点を得ようと、張り切っていました。500ヤード(450メートル)地点の立ち位置に来た瞬間、わたしは緊張し、1発目を撃つときに肩が大きく動いてしまいました。当然のことながら、旗が振られました。わたしは的を外してしまい、特級射手という名誉を得る機会をも逃したのです。

そのときわたしの口から、決して使わないと決めていた汚い言葉が飛び出しました。すると突然、射撃場から銃声がやみ、皆が驚いた様子でわたしの方を振り返りました。わたしはぎくりとしました。何ということをしてしまった

のでしょうか。その日、その場所でほかの海兵隊員がその言葉を口にしても、だれも気にも留めなかったでしょう。でも、海兵隊でも伝道中と同じ標準を保とうと決意していたわたしが、われを忘れて汚い言葉を口にしたとき、周りの人はショックを受けたのです。

救い主自ら、言葉遣いについて、次のように教えられました。「口にはいるものは人を汚すことはない。かえって、口から出るものが人を汚すのである。」(マタイ 15: 11)

ふさわしくない言葉遣いを避けるために、別の言葉で言い換えるケースが多くあります。時々その代用語が元の俗悪な言葉とよく似ているため、聞いている人々は、言葉は入れ替えているけれども、言葉遣いとしてはあまり改善されてはいないと感じることでしょ

う。もうすぐ帰還する宣教師たちが聖餐会^{せいさん}で話すのを聞いて、あぜんとしたことがあります。彼らは伝道中に覚えた言い回しを使って話していたのですが、それは単に、俗悪な言葉の言い換えでしかなかったのです。彼らの言葉遣いは、正しい表現を習得できていないこと、また伝道中にしてきたことを正しく伝える能力が備わっていないことを表していました。

言葉遣いを改善する方法

これまで不敬な言葉や俗悪な言葉を使ってきたけれども、その習慣を直したいと望んでいる人に、以下のことを提案します。

1. そうした言葉を自分の使う言葉のリストから除くと決意してください。
2. 汚い言葉やその代用語をうっかり口にしてしまったら、頭の中で、俗悪な言葉や代用語を使わない表現に直してください。
3. その新しい表現を声に出して言いましょ

うやがて、俗悪な言葉を一切使わずに話す習慣が身に付くでしょう。

パウロがエペソの聖徒に与えた教えは、すべての人に有益だと思

います。「悪い言葉をいっさい、あなたがたの口から出してはいけません。必要があれば、人の徳を高めるのに役立つような言葉を語って、聞いている者の益になるようにしなさい。

神の聖霊を悲しませてはいけません。あなたがたは、あがないの日のために、聖霊の証印を受けたのである。」(エペソ 4: 29 - 30)

清く、健全な言葉遣いを保つ勇氣を持ってください。言葉遣いを改善してください。そうすれば、主に仕える者の一人として数えられるでしょう。

救い主は教えられました。「善人は良い心の倉から良い物を取り出し、悪人は悪い倉から悪い物を取り出す。心からあふれ出ることを、口が語るものである。」(ルカ 6: 45)

心からあふれ出る良いものを口が語りますように、すべての皆さんのために心から祈ります。■





避難場所を探す

「お決まりの言い訳は〔ポルノグラフィーは〕『避け^{がた}難い』『いとも簡単に見られるので逃げ場がない』というも

のです。^{あらし}嵐が荒れ狂い、風がうなりを上げ、猛吹雪があなたを襲っているとします。嵐を静めることはできません。しかし、きちんと着込み、嵐を避ける避難場所を探すことはできます。そうすれば嵐は何の影響も及ぼすことができないのです。」

ゴードン・B・ヒンクレー大管長

「悲劇をもたらす悪」

『リアホナ』2004年11月号, 61参照

ポルノグラフィー との戦い

匿名

初めてポルノグラフィーに遭遇したのはちょうど10歳のころです。年上の友達の家でテレビを見ていました。友達にはコンピューターに向かうと、見せたいものがあると言いました。それが何か尋ねると、彼は「女の子のセクシーな写真だよ」と言いました。そういうものを見ることは自分の信仰に反していることを教えました。彼は「よく言うよ。だれだってこんなものは見るだろ。自然なことさ」と、言いました。わたしは見るのを拒んで、帰りました。

2年後、わたしは再びその友達の家にいました。今回の違いは、好奇心と誘惑に負け、友達が見せてやると言ったものを見てしまったことです。それは人生最大の間違いでした。今では、あのような決断をしなければよかったと毎日のように後悔しています。

わたしは家のコンピューターでポルノグラフィーを見続けました。それは独りになれる場所でしたが、もしだれかが入って来たときは、よく知らないけれど突然その画面が飛び出して来たなどと言いつつを言いました。その後1年は罪悪感を無視し、ポルノグラフィーを見るのをやめるための努力すらしませんでした。それが自然なことだと自分に言い聞かせ、そうではないという教会の勧告をすべて無視しました。最初は気づきませんでした。ポルノグラフィーの依存症にかかっていたのです。女の

子に対する見方が変わり始め、自分の抱く思いが恥ずかしくなりました。

ユース・カンファレンスでステーク会長が、ポルノグラフィーを見ることで若い男性がどのように神権を行使するふさわしさを失ってしまうかについて話しました。その話を聞いたとき、やめなければならないと確信しました。最初は自分独りでやめられると思いましたが、自分の行いを裁かれなくなかったのでピショップには言いたくなかったのです。その代わりに、もう見ないと決意しました。残念ながら、その決意は長続きしませんでした。毎回これで最後だと決意するのですが、中毒が深く染み付いていたため、結局は繰り返し見てしまうのでした。

この罪の結果、ほかにもたくさんの罪が生じました。教会へは通い続けましたが、うわのそらでした。サタンに生活を支配され、御霊の影響力を失いました。セミナーでは聖典を読んでいるとうそをつきました。ボーイ・スカウトの記録にも、達成したとうそを書きました。学校でカンニングすらしました。してはならないと教えられていたあらゆることをするようになってしまったのです。

祈りと自制によって中毒を克服しようとして5年が過ぎました。しかし独りでは克服できませんでした。

ついにポルノグラフィーの問題を抱えていることを両親に話しました。助けが必要なこと、

依存症から立ち直ろうと懸命に戦いましたが、いつも負けるのはわたしでした。ついに独りでは勝てないことが分かりました。

予 防

ポルノグラフィーに対する最善の防御は、それに近づかないことです。以下に、依存症とその問題に近づく最初の一步を予防する方法を提案します。

- ポルノグラフィーに苦しむ人の多くは、最初に友人からそれを見せられました。もしだれかがポルノグラフィーを見せようとしたら、直ちに立ち去ってください。ともに過ごす相手を注意深く選んでください。
- いかなる程度でも不道徳な話をしたり、不道徳なものを見せたりするメディアは、勇気を出してすぐに消してください。
- 家庭のテレビやコンピューターは、家族がよく出入りする場所に置いてください。独りで家にいるときにはコンピューターを使わないでください。
- ポルノグラフィーのウェブサイトをブロックするフィルターが機能していないコンピューターでは、インターネットに絶対接続しないでください。ポルノグラフィーの攻撃の嵐あらしから自分を守ってください(34ページにあるヒンクレー大管長の言葉を参照)。
- 知らない人からのメールは決して開かないでください。もし偶然にインターネット上でポルノグラフィーに遭遇したら、直ちにコンピューターを消して大人に報告してください。
- 聖霊のささやきに耳を傾けてください。聖霊はあなたが危険な状況にいるときに警告してくれます。

回 復

もしポルノグラフィーのわなにかかっているなら、悔い改め、そして、依存症を克服しなければなりません。ビショップあるいは支部会長の助けを受けながら悔い改めを成し遂げてください。LDSファミリーサービスは依存症から立ち直るための以下の提案をしています。

- **正当化をやめる。** 依存的行動を正当化するのをやめなければなりません。

- **依存のサイクルを断ち切る。** 以下の依存のサイクルを繰り返さないようにします。

第1段階：没頭——性的な感情を刺激するイメージを思い巡らす。

第2段階：儀式化——決まった行動パターンによって、ポルノグラフィーに近づく。

第3段階：ポルノグラフィーを見たり利用したりする。

第4段階：落胆する。

4つの段階のどこかでこのサイクルを壊すことによって、ポルノグラフィーを見る誘惑を克服することができます。ある段階から別の段階へと進むのを止めるには次のような方法があります。

1. **思いと望みをコントロールする。** 信仰、^{だんじき}断食、祈り、聖文学習によって、汚れた思いを克服してください。ふさわしくない考えが頭に浮かんできたらすぐに、靈感あふれる音楽を聴いたり、聖文を暗唱したり、健全なことを考えたりすることで、思いを入れ替えてください。

2. **行動パターンを変える。** 散歩をする、聖文を読む、友達と話す、スポーツや楽器の練習をするなど、何か違ったことをしてください。

3. **機会を根絶する。** ポルノグラフィーへの経路を断つことによって、見るのをやめましょう。

4. **希望が落胆に取って代わるよう祈る。** 勇気を感じられるような間違いが起こらないようにしてください。悔い改めと赦しを通して、落胆の代わりに希望を感じることができます。依存症を克服するには時間がかかります。成功するのは粘り強い人です。

- **専門家の支援を求める。** 深刻な依存症は専門家のカウンセリングを要する場合があります。地域によっては、ビショップあるいは支部会長から最寄りのLDSファミリーサービス事務局を紹介してもらうことができます。LDSファミリーサービス事務局では依存症からの立ち直りを支援するプログラムを用意しています。詳しくは <http://www.ldsfamilyservices.org> をご覧ください。教会の小冊子『徳であなただけの思いを飾るようにしなさい』(カタログ番号00460 300)にも、ポルノグラフィーから立ち直るための情報が載っています。



わなを避ける

「ポルノグラフィーの疫病はかつてないほど周囲で渦巻いています。ポルノグラフィーは不道徳、家庭や人生の崩壊

というひどい結果を招きます。また堪え忍ぶための霊的な強さを衰えさせます。ポルノグラフィーは流砂によく似ています。足を踏み入れた途端にあまりに容易に捕らえられ力を奪われてしまうので、恐ろしい危険に気づかないのです。ポルノグラフィーの流砂から逃れるにはほとんど例外なく援助が必要となります。しかし足を踏み入れない方がどれほどよいでしょうか。」

十二使徒定員会
ジョセフ・B・ワースリン長老
「進み続ける」
「リアホナ」2004年11月号, 102

独りでは克服できないことを伝えました。両親にとってもつらいことでしたが、理解を示し、助けようとしてくれました。ビショップに話すように両親から励まされました。

両親の言うとおりにすべきだとは分かっていたのですが、ビショップに話すのは不安でした。ビショップとの間に良い関係があると思っていたので、今まで隠し続けてきたすべての罪を知られたくありませんでした。勇気を振り絞ってビショップに会いました。そして、ビショップが深い思いやりを示してくれたことに驚きました。まったく裁かれているように感じませんでした。助けたいという気持ちだけが伝わってきました。

ビショップにすべてを告白し、悔い改めを始めると、すぐに生活が改善されました。ポルノグラフィーへの依存症を完全に悔い改めるためには、自分のすべての罪を悔い改める必要があることが分かりました。セミナーのすべての賞とボーイ・スカウトの達成章を返し、努力しなかったことを認めました。また、学校の先生にはカンニングしたことを告白しました。

ビショップの助けによって、わたしはビショップと主の両方に告白することがどんなに大切であるかを知りました(教義と聖約58:43参照)。以前は自分独りでこの依存症に立ち向かおうとしていましたが、今は両親と、ビショップと、それから最も大切なことですが、主がわたしの側にいてくださるのです。誘惑に対する強力な防御が得られました。

コンピューターは自由に視聴できないように設定し、神聖なものに心を集中させるために、近くに神殿や預言者の写真を置きました。日々の聖文学習が霊的な防御を築くためにも役立つことに気づきました。ポルノグラフィーを見ているときは、聖典がどこにあるかすら気に留めていなかったと思



います。しかし今は、誘惑に対抗するために毎日聖文を読む必要があることを知っています。

また、見たり聞いたりするものにもっと気をつけるようになりました。多くのテレビ番組や映画は不道徳を当然なこととして扱っています。確かにそれは生まれながらの人、つまり神の敵となっている人にとっては自然なことなのです(モーサヤ3:19参照)。イエス・キリストの贖いだけが、わたしが生まれながらの人を捨てて、罪の赦しを得られるようにしてくれたのです。わたしが自分の罪のために経験した悲しみを理解できる人がいるとしたら、それはすべてを堪え忍ばれた救い主であることを知っています。

今では、ポルノグラフィーへの依存症を完全に断ち切っています。贖いを通して永遠の希望が得られることが分かりました。今後も用心を怠ってはなりません。生活の中で御霊の助けを受けられるので、戦いに勝つことができるでしょう。悪魔はこれからも誘惑してくるでしょうが、救い主がわたしの側にいてくださるかぎり、悪魔が勝利を収めることはありません。

たった1度の出来事が、人を惨めにしかしない長期の依存症を引き起こす原因になり得ることを、わたしはつらい経験から学びました。下らない好奇心から罪に陥り、絶望を経験しましたが、この有害な疫病から生涯ずっと遠ざかる決意ができました。伝道に出て、神殿で結婚し、最終的に天の御父やイエス・キリストとともに再び生活することを楽しみにしています。■

青少年に ポルノグラフィ について話す



両親および神権指導者は、性的な親密さについて青少年と率直に話し合うことで、ポルノグラフィが霊と感情、そして肉体に危険をもたらすということを青少年が理解し、避けるよう助けることができます。

ダン・グレイ
公認臨床社会福祉士

現代の青少年は露骨な画像の攻撃をまともに受けています。そのほとんどは肉欲的で卑わいなものです。しかし、性に関する問題が複雑で扱いにくい性質を帯びているため、両親の多くはこのテーマについて子供と話し合うことに消極的だったり恥ずかしがったりします。結果的に、大勢の青少年が、考え違いをしている友人や堕落したメディアから情報を入手することになり、性的な力について誤った見解を持つことがしばしばです。このような見解は不適切な行為へと結びつくことがあります。

わたしたちは青少年に純潔の律法を教え、彼らに不道徳によって生じる苦痛を避けてほしいと願っています。そのために両親と神権指導者はどのようなことができるのでしょうか。それは、人間の持つ性的な親密さは神聖なものだということを青少年と話し合うこと、そして青少年がその親密さに伴う感情を理解し、制御できるように助けることです。

性的な力を誤って行使しないことばかりを教えられると、青少年は精神的に不安定になったり、自信が持てなくなったりすることがあります。こちらの伝えたいメッセージが、意図に反して次のように解釈され、青少年を混乱させる可能性があるのです。「性的な思いや感情は不道徳で、罪深く、間違っている。愛する人のために取っておきなさい。」性的な力について否定的なメッセージだけを伝えられた青少年は次のような結論を下すかもしれません。「性的な思い、あるいは衝動は悪いものだ。だからそのような思いや衝動を強く感じるわたしも悪い人間に違いない。」このような考えを持つと、自尊心が低下したり、自分は価値がないと思ったり、後ろめたいと感じたりするようになり、その結果、自分は御霊から遠く離れてい

るという思いを抱き続けることもあります。

率直に話し合うことによって、このような誤解の多くを防ぐことができます。肉体と生殖の神聖な性質について青少年と話し合うことで、ポルノグラフィーが霊と感情、そして肉体にもたらす危険を理解し、避けるように青少年を助けることができます。

わたしたちの肉体——その神聖な性質

メディアは、肉体の理想的な姿やその意義について現実離れた考え方を伝えることがよくあります。このような考え方に影響されると、肉体はわたしたちの存在の重要な一部ではなく、むしろ単なる物であると考えられるようになります。このような見解を受け入れると、「完全な肉体」が崇拜の対象に近いものとなり、自分がそのレベルに到達できないと、自己嫌悪に陥る可能性が出てきます。

この世の破壊的な見方を伝えるメディアに青少年を教えさせることなく、わたしたちが彼らを教えるようにしましょう。それぞれに個性を持つわたしたちの肉体は神からのすばらしい賜物であり、喜びと充足感を与えるために創造されているということを教えるのです。1913年に十二使徒定員会のジェームズ・E・タルメージ長老(1862-1933年)はこう語りました。「わたしたちは……自分たちの肉体を神の賜物と考えるよう……教えられてきました。わたしたち末日聖徒は、肉体を何か非難すべき、汚らわしいものと考えてはいません。……わたしたちは〔肉体を〕高貴な生得権を示すしるしと考えています。……肉体はわたしたちの存在の重要な一部であるという教えは、末日聖徒が奉じる神学に特有のものです。」¹ このことを理解すれば、青少年は自分と他人の肉体に深い敬意を払えるようになります。

十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老も肉体の神聖な性質について次のような明確な言葉で語っています。

「わたしたちは、啓示され回復された、人の存在に関する末日聖徒の教義を言葉どおりに理解しなければなりません。また、その教義の中で肉体の果たす重要で必要不可欠な役割を理解しなければなりません。

この神権時代に回復された『簡潔かつ貴い』真理の一つは、『霊と体が人を成す』ということですから……(教義と聖約88:15, 強調付加)。

……肉体(この言葉に人の存在という言葉を含めてください)を不当に扱う人は、結局は、世の光であり世の命である主を不当に扱っていることになります。」²

わたしたちの性的な力——賜物

肉体という祝福に加えて、わたしたちには神聖な生殖の力が与えられています。天の御父は結婚における性的な表現という行為を承認され、その表現を通して夫婦が喜び、愛、そして充足感を体験することをよしとされました。スペンサー・W・キンボール大管長(1895-1985年)は次のように述べています。「性的に親密な関係は合法的な結婚の中において正しいとされ、神の承認を受けることができます。性的な力そのものは不浄でも墮落したものでもありません。なぜなら、男女はこの手段によって生命の創造と愛の表現に携わるからです。」したがって人の性的衝動は、適切に表現されるかぎり、すばらしい、神聖な賜物と考えてよいのです。

このテーマについて、十二使徒定員会会長代理のボイド・K・パッカー会長は教会の青少年に対して次のように語っています。パッカー長老の深い洞察は、これらの力の持つ肯定的かつ神聖な性質について両親が青少年に教えるうえで助けとなることでしょう。

「わたしたちの肉体には、神聖な創造の力が備えられました。さながら火に、物を燃やし新たな火をおこす力があるのと同じように。この賜物は、ただ神聖な結婚のきずなの中でのみ用いられるべきものでした。この力を行使することにより、肉体が創造され、霊がそこに宿り、新しい命がこの世に生まれるのです。

この力は善なるものです。それによって家庭が作られ、維持されるのであり、幸福の源は家庭生活の中に見いだされるのです。それは神聖で重要な力です。わたしは友である青少年たちに繰り返して言います。この力は善なるものです。……

皆さんがこの世の生涯で得ることのできる幸福の多くは、神聖な創造の力をどのように使うかに懸かっています。」⁴

ポルノグラフィーの有害な影響力

この神聖な力を損なうものの一つがポルノグラフィーです。ゴードン・B・ヒンクレイ大管長は、ポルノグラフィーを見ることによって、次のようなことが起こると語っています。「若者の心は誤った考え方によりひずみを生じます。ポルノグラフィーを見続けると、断ち切ることがほとんど不可能な中毒状態になります。」⁵

多くの人々が、そして一部の専門カウンセラーですら、ポルノグラフィーを見るという行為を無害だとして許可し、容認しています。ポルノグラフィーを見るという行為は「正常」であり、人目のないところでだれにも知られることなく行われる

ならば害はないと言って正当化するのです。これと同じ理論は、ポルノグラフィーと同時に自慰行為を正当化するときにも用いられます。では、青少年から「ポルノグラフィーと自慰行為の何が問題なの」と聞かれたとき、どのように答えればよいのでしょうか。上手に対応するため、以下の4つのポイントを参考にしてください。

ポルノグラフィーは人を汚します。つまりイエス・キリストが贖^{あがな}ってくださったわたしたちを汚すのです。肉体は人という存在の一部です。したがって、ほかの人の肉体を自分の欲望を満たすための手段として見るなら、それはまさしく自分だけでなくその人自身を汚すことになるのです。ホランド長老は、これらのことを正当化したり軽視したりすることによってもたらされる結果について警告しています。「ほかの人（この言葉に肉体という言葉を含めてください）を卑しめるなら、それは贖いを卑しめていることになります。人は贖いによって救われ、その存在が永続するという保証を受けているからです。明けの明星と称される義の御子を卑しめるなら、それは白熱と真昼の太陽よりも熱く、神聖な炎をもてあそんでいることになるのです。そのようなことをして、焼かれないわけがありません。」⁶ ポルノグラフィーは肉体と霊を汚し、墮落させます。わたしたちはほかの人々と自分自身に備わっている神聖な性質を尊ぶ必要があります。

ポルノグラフィーは、わたしたちに秘められた可能性を十分に発揮する機会を妨げます。天の御父はわたしたちの肉体と霊を創造されました。御父は、どのようにすればこの肉体と霊をともに最高の状態に保てるかを御存じです。また、秘められた可能性を十分に発揮するために何が役に立つのか、何がわたしたちの進歩を妨げるのかを御存じです。肉体に何を取り入れればよいのか、何を避ければよいのかも存じです。預言者は、わたしたちがポルノグラフィーの画像を心の中に入れることで自らの霊に悪影響を与え、その結果として、幸福と喜びを得る能力を失う危険があると教えています。しかし、聖文や預言者を通して与えられる主の指示に従えば、わたしたちが持つ可能性を十分に発揮することができるのです。

ポルノグラフィーには中毒性があります。繰り返しポルノグラフィーを見ると、特にそれが自慰行為と結びつくときに、習慣や依存症に発展することがあります。依存症は、ポルノグラフィーを見ることにより体内で「急増する」化学物質から得られる快感のとりこになることで起こります。人は、人生の困難、そのほか精神的な痛み、怒り、退屈、孤独、あるいは疲労といった情緒的有害因子から逃げるため、または押し

つぶされないように、こうした依存に陥ることがあります。このような依存傾向は、断ち切るのがきわめて難しく、婚姻関係にない相手との性交渉にまで発展することがあります。

ポルノグラフィーは結婚に対して不健全な期待を持たせません。人はポルノグラフィーを見て、感情的に興奮すると、肉体的にも実際の性交渉と同様の興奮を経験します。このような行為が何度も繰り返されると、肉体と心がある特定の性的画像や行為に対して条件的に反応するようになります。その結果、人は性的関係のあるべき姿や将来の予想に対して非現実的で不健全な期待を持つ可能性があります。そのような期待は結婚生活にも影響を及ぼし、夫婦間の苦痛、不信、争い、混乱、そして裏切りを引き起こします。

絶えることのない徳

主は清く徳高い思いと慈愛を合わせ持つ人々にすばらしい祝福を与えられます。「絶えず徳であなたの思いを飾るようにしなさい。そうするときに、神の前においてあなたの自信は増し、神権の教義は天からの露のようにあなたの心に滴^{したた}るであろう。聖霊は常にあなたの伴侶と……なるであろう。」(教義と聖約121:45-46)

「絶えず」徳高い思いを抱き続けるにはどうすればよいでしょうか。不適切な思いや行動をうまく克服している人々は、徳の高さを保ってくれる事柄を日々習慣として行っています。その中には、次のような行動が挙げられます。

- 心を高める音楽を聞く。
- 神の創造された自然を楽しむ。
- 肉体を清くまた健康に保つ。
- 聖文と良い文学作品を読む。
- 良い友人や家族とともに笑い、楽しい時間を持つ。
- 低俗で品位のない会話に加わらない。
- 感謝の祈りをささげ、誘惑に打ち勝つ力を願い求める。
- 家庭や職場で自分の周りに徳高さを維持してくれるものを置く。例えば、写真、絵画、愛する人からの贈り物、笑いを誘うもの、あるいは特別な記憶を呼び起こす助けとなるもの。

これらはすべて徳の象徴となり、わたしたちの思いを清く保ち、様々な肉欲の思いから遠ざけてくれます。青少年が人生でこれらの方法を学び実践するならば、教義と聖約121章で語られている信じられないほど豊かな祝福を経験するようになるでしょう。

わたしたちは皆、克服すべき弱点があるということも理解しなければなりません。弱点があるために神の愛を受ける

資格がなくなるということはありません。事実、弱点を克服することは主がわたしたちのために立てられた計画の一部なのです。主がわたしたちに自らの弱点を気づかせてくださり、わたしたちが主の指示に従い、(落胆したり希望を失ったりするのではなく)謙遜で従順になるときに、素晴らしいことが起こり始めます。わ



たしたちは信仰をもって自らの心を主に従わせることができます。そうするとき、主はわたしたちの意志の力だけではなく、主の恵みと力によって、わたしたちの「弱さを強さに変え」てくださいます(エテル12:27)。

主はわたしたちの弱さを取り去るとは言っておられません。わたしたちは自分の弱さによって誘惑を受け、悩まされ続けるかもしれませんが、謙遜になって、信仰を持ち続けるときに、主はわたしたちが誘惑に立ち向かえるよう助けてくださいます。

ポルノグラフィーの問題を抱えている青少年は、自分たちが見捨てられているわけではないこと、わたしたち指導者と主はいつも彼らを愛していること、そして解決の方法があることを知る必要があります。ヒンクレイ大管長はこう言っています。「自分を縛りつけている中毒を取り除いてくださるよう、心の奥底から、主に願い求

めてください。また、勇気を奮い、ビショップの愛に満ちた導き、必要ならば、思いやりのある専門家の助言を求めてください。』⁷ 青少年は両親、神権指導者、そして専門家から援助を求めることを恥ずかしいと感じる必要はありません。

両親として、また指導者として、わたしたちは青少年と積極的にかかわり、彼らのために安全な環境を作る努力をしなければなりません。これらの大切な事柄に関して、わたしたちは臆す

ことなく青少年と意見を交換し、彼らが福音の原則から離れることなく、敵対者の力に対し守りを固めるように励ます必要があります。わたしたちは、インターネットの使用を含め、青少年が行っている行動を把握し、見守り、人に与えられた性的な力がもたらす祝福と危険について率直に話し合い、耳を傾け、福音に根差した指示と導きを与える必要があります。

もちろん、わたしたちは自分自身の親密な経験について話すことはしません。しかし、この記事で採り上げられている原則を応用することによって、青少年が自らに備わっている性的

衝動という力と可能性について明確に理解できるよう助けることができます。

さらに大切なことは、わたしたちが青少年に模範を示さなければならないということです。彼らは、わたしたちが悪い影響にどう対処しているかを見えています。敵対者の影響力は主の神聖な力と影響力にははるかに及びません。わたしたちが信頼しているのは主なのです。この知識を「わたしたちが」持っていることを青少年が知るようになしてください。■

注

1. Conference Report, 1913年10月, 117で引用
2. *Of Souls, Symbols, and Sacraments* (2001年), 11, 13
3. *The Teachings of Spencer W. Kimball*, エドワード・L・キンボール編(1982年), 311
4. 「なぜ清くあるべきか」『聖徒の道』1973年1月号, 15参照, 強調付加
5. 「悲劇をもたらす悪」『リアホナ』2004年11月号, 61
6. *Of Souls, Symbols and Sacraments*, 13
7. 『リアホナ』2004年11月号, 62

ポルノグラフィーに打ち勝つために

『徳であなたの思いを飾るようにしなさい』はポルノグラフィーに苦しむ人々を助けるために作成された新しい小冊子で、以下の方法が書かれています。

- メディアの持つ破壊的な力を認識する。
- ポルノグラフィーの誘惑に抵抗し、避ける。
- ポルノグラフィー依存症と決別する。

『徳であなたの思いを飾るようにしなさい』(アイテム番号00460 300)には、悔い改め、肉体の神聖さ、この世で受ける様々な影響に打ち勝つ方法についての聖文やその他の教会資料も記載されています。教会の指導者および家族はポルノグラフィーに苦しんでいる愛する人々にこのパンフレットを紹介することができます。



開拓者たちのことを 思い出しました

ダニエル・システナス

19歳のとき、わたしはスウェーデンの軍隊に召集されました。そして、大砲の合図をする兵士として、第8中隊の参謀・司令部隊に配属されました。

1月のある朝、4時ちょうど、完全武装して20分以内に外に集まるよう、将校たちからの命令が出されました。前日の激務からの疲労と空腹で、わたしは目を閉じていたい気分でしたが、それでも、新しいテストに立ち向かう準備を始めました。あの暖かい兵舎から、筆舌に尽くしがたい極寒の中に飛び出したときの気持ちをわたしは今でも忘れられません。

わたしたちを乗せる大きな軍用バスが到着すると、これからストックホルムに行くと言われました。新兵訓練を継続する資格があるかどうか見る大きなテストを受けるためです。町に到着すると、わたしたちは3つのグループに分けられ、それぞれに異なる地図が渡され、行き先が告げられました。

わたしたちは、武器、弾薬、その他の装備で完全武装し、ストックホルムの通りを行進しました。各チェックポイントでは、人質を取られた場合の対処法、市街戦、さらにはトンネルや建物の間を走り抜けたり、応急手当をしたりと、様々な実地テストが課されました。休憩は、それぞれのテストの後、次のチェックポイントに移る前にかろうじて休むことができるという程度でした。

足は凍結したアスファルトのために感覚を失い、肩は重い装備のために激痛にさいなまれました。それでも、わたしは前進を続け、できるかぎり不満を口にしないようにしました。わたしたちのグループは悪天候に見舞われ、幾つかの困難な試練に遭遇しましたが、それでも兄弟のように一致団結して前進を続けました。行軍の途中で、わたしたちと遭遇して驚いた民間人から、笑われ、指をさされ、怒鳴られました。

最終目的地に着き、バスがわたしたちを拾ってくれたときには、わたしは疲れ果て、寒く、汚れ、体中に痛みが走っていました。基地への帰還の途中、わたしは自分の小隊に課せられた試練を思い浮かべ、この訓練は最後にメダル

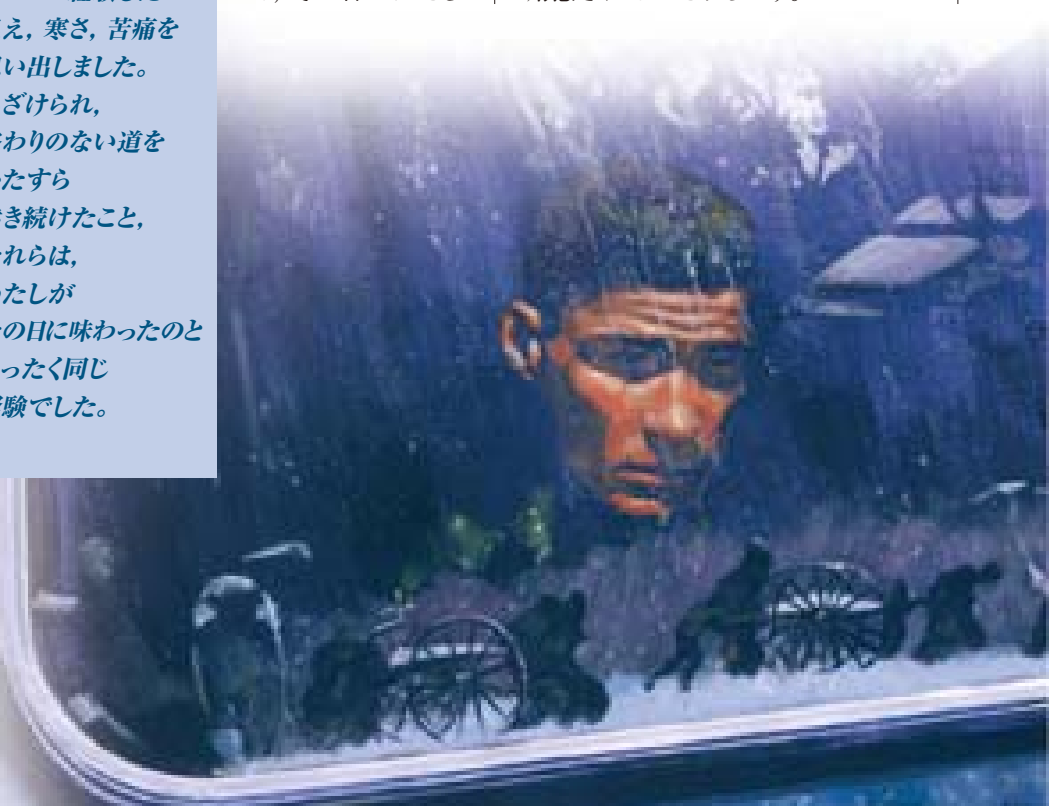
を授与されること以外に何らかの価値があるだろうかと思問しました。そして、その日のわたし

たちのような試練を経験した人々がほかにいただろうかと思巡らしました。

そのとき、わたしは、教会初期の開拓者たちの苦難と犠牲について考えました。彼らの飢え、寒さ、苦痛の物語を思い出しました。あざけられ、終わりのない道をひたすら歩き続けたこと、それらは、わたしがその日に味わったのとまったく同じ経験でした。大きな違いと言えば、わたしが耐え忍ばなければならなかったのはたった一日であったということです。開拓者たちは、寒い日も雪の日も、そして雨の日も、また灼熱の暑さの中でも泥と埃にまみれて歩き続けたのです。物質的に身を守るものはほとんどなく、彼らが持っていたのは、主が彼らを守ってくださるといふ信仰だけでした。こうして、開拓者たちはシオンを見いだすために歩き続けました。主がそこで会員たちに果たすべき驚くべき業を用意されていたからです。

わたしは、開拓者たちの経験した

飢え、寒さ、苦痛を思い出しました。あざけられ、終わりのない道をひたすら歩き続けたこと、それらは、わたしがその日に味わったのとまったく同じ経験でした。



突然、わたしは何の考えもなく、「恐れず来たれ、聖徒」(『賛美歌』17番)を歌い始めました。わたしはバスの中で、心にある変化を感じ始めました。温かさと幸福な気持ちで全身が包まれました。当時、わたしは活発に教会に集ってはいませんでした。教会に再び戻るとは思ってもいませんでした。しかし、不意にわたしは「教会に戻らなければいけない」という思いに駆られたのです。

基地に戻ると、わたしは両親に電話をし、両親を愛していること、そして教会に戻りたいことを告げました。次の日曜日は、わたしにとって教会に戻る勇氣があるかどうかを試す大きな試練の日となりました。わたしは長い間、教会から遠ざかっていました。そのため、教会に戻ることは生易しいことではありませんでした。しかし、その価値はありました。家族やほかの教会員の助けもあり、わたしは温かく迎えられました。

わたしは伝道に出る準備を始めました。そして2年後に伝道の召しを受け、ケーベルデプライア伝道部で伝道することになりました。宣教師訓練センターへ向かう途中のソルトレーク・シティーで、この地に壮大な神殿を建て、美しい街を計画した開拓者たちの驚くべき業を目の当たりにしました。思わず小さな声で「ありがとう」とつぶやきました。

今でも、軍隊で受けたあの試練が価値あるものであったかどうか自らに問うとき、わたしはそれがあらゆる点で価値あるものであったとはっきりと答えられます。なぜなら、仲間の兵士たちと一緒にいたバスの中で深い洞察を得たあのひとときのおかげで、主の業がいかに大切なものであるか知ることができたからです。そして、わたしが再び主に立ち返り、今こうして主の業と主の御心みこころを行っていられるからです。■



子供たちを湖から戻らせなさい

ジャーナル・ジョンソン

それは、2003年6月のある晴れた日のことでした。わたしは5人の子供を車に乗せ、ユタ州ローガンの自宅から、ベアーレークにいる姉の家族を訪問しました。彼らの家は湖から徒歩で数分の所にあり、しばらく話をした後、わたしは自分の子供たちと姉の二人の子供であるカミとエリンを連れて、湖岸で遊ぶことにしました。

湖の水は温かく、辺りにはさわやかな風が流れていました。わたしはいすに腰掛け、ゆったりとした気分の本を読んでいました。ふと、湖に目をやると、カミが岸から約50ヤード(46メートル)ほど沖で、ウレタン製の浮き板に乗って波の上を漂っていることに気づきました。湖は、岸からさほど遠くない

所で、非常に深くなっていました。わたしは両手を振って戻って来るように合図しましたが、彼女は遠くにいてわたしの声は届きませんでした。

わたしは不安に駆られ、子供たちを湖からすぐ引き上げさせるべきだという御霊みたまのささやきを感じました。わたしは、岸に戻って来るよう、子供たちに向かって叫びました。子供たちは、しぶしぶわたしの方へ近づこうとし始めました。突然、御霊が、大きなはっきりした声で、「子供たちを湖から戻らせなさい」と告げました。背後の山の方を振り向いて見ると、黒い雲が覆っていました。空には大きな稲光が走っていました。

「早く水から上がりなさい!」わたしは大声で叫びました。「雷が近づい

わたしは、
自分に
残された
すべての力を
振り絞って、
カミにも
わたしの声が届き、
主に祈っていることが
分かるように、
大声で叫びました。
「天のお父様、
どうか、この窮地を
乗り越える力を
お与えください。」



ているの！」わたしはカミの方に向かって一目散に走り出しました。カミはそのころには、岸から75ヤード(68メートル)くらいの所に浮いていました。そのとき、突風が突然襲ってきました。8歳の息子ダリンは、もう一つの浮き板を抱えて湖から上がろうとしましたが、風がヨットの帆に吹きつけるときのように浮き板に打ち付けたため、地面に叩きつけられてしまいました。

わたしは、急いでカミのところまで泳いで行こうとしましたが、彼女は風のためにますます遠くに流されていきました。わたしは泳ぎが得意ではありませんでしたが、周りの高波をかき分けて少しずつ進みました。カミは浮き板の端につかまって、必死にばた足をしました。しかし、強風と戦うにはあまりに無力で、どんどん沖に流されていきました。

わたしが前に進めば進むほど、湖は

深くなり、ついに肩に達するまでになりました。そして、湖の底が急に深くなっている所にさしかかり、それ以上進めなくなりました。しかし、まだカミからは20ヤード(18メートル)ほど離れていました。わたしは、口を開いて、彼女を呼ぼうとしましたが、恐怖のあまり、声が出ませんでした。少ししてようやく声が出ましたが、それはただのあえぎ声でしかありませんでした。そのとき、岸から遠く離れて、湖の水がとても冷たくなっていることに気づきました。わたしの体温はどんどん下がってきていましたが、自分ではどうすることもできません。二人ともこのままおぼれてしまうのでしょうか。

わたしは、自分に残されたすべての力を振り絞って、カミにもわたしの声が届き、主に祈っていることが分かるように、大声で叫びました。「天のお父様、どうか、この窮地を乗り越える

力をお与えください。」その瞬間、体の中に温かいものが注がれ、再び力がよみがえってきました。力強く、はっきりした声が出せるようになると、「カミ、両手で水をかきなさい」と叫びました。カミは浮き板に身を乗せ、10歳の小さな手で必死に犬かきを始めました。彼女にはこの強風の中を進むほどの力は残されていないはずでしたが、それでも、巨人の手にも後押しされるかのように、わたしの伸ばした手の方に静かに進んで来たのでした。わたしは励ましの言葉をかけ続け、ようやく二人の指が触れる所までカミはたどり着きました。そのとき、天の御父が彼女をここまで連れ戻してくださったのだから、わたしたちはきっと助かる、と確信しました。

岸辺では、ダリンが砂混じりのひどい風に打たれて、泣いていました。わたしは力を振り絞って、ダリンとほかの子供たちを連れ、浮き板とおもちゃを車に投げ込みました。遠くで大きなサイレンの音が流れ、雷により丘の上で火災が起きたことを告げていました。それは、また新たな恐怖を感じさせるものでしたが、それでもわたしたちは、神の助けによって救われたのだというはっきりとした確信を得ることができました。

わたしは、湖から上がるときに起きたことを子供たちに説明し、家に着くとすぐに、わたしたちは、神がわたしたちの命を救ってくれたことへの感謝の祈りをささげました。祈っているとき、わたしは天の御父の圧倒されるほど大きな愛を感じました。神は確かに、御自身の子供たちをいつも心にかけておられるのです。あの日、神がわたしたちとともにおられたことを心から感謝しています。■

また話せるようになる でしょうか

ジャビエル・ガマラ・ビレナ

わたしがサンティアゴと会ったのは、母国ペルーでの伝道に出て数か月たったころでした。サンティアゴは日曜学校の新会員のクラスに出席していましたが、まだバプテスマは受けていませんでした。宣教師のレッスンもまだ受けていなかったのです。彼には言語障害があり、その負い目で人と話すことに自信がありませんでした。

実はサンティアゴは少し前まで、はっきりとした声で話すことができ、きれいな歌声で歌っていました。しかしあるとき、発作に見舞われ、長い間リハビリテーション・センターに通い、歩行は回復したものの、まだ十分に話すことができなかつたのです。

サンティアゴがわたしたちと会ってくれたと言ったときには、胸が高鳴りました。最初の訪問の際、サンティアゴは一生懸命話そうとし、わたしたちもできるだけ理解しようと努めました。彼は特に、モルモン書を声に出して読むのを楽しみにしていました。わたしたちは彼を心から愛し、尊敬するようになりました。

ある日、福音の儀式について、話し合っていたとき、サンティアゴは、「わたしにはバプテスマと確認の儀式を受ける準備ができています」と言ってきました。レッスンを終わると、サンティアゴは立ち上がり、目を輝かせて、声を出すのに苦労しながらも、こう尋ねました。「長老たち、バプテスマを受けたら、また普通に話せるようになるのでしょうか。」

わたしは一瞬、面食らってしまい、ど

う答えていいか分かりませんでした。それでも、御霊の導きを得て、確信をもってこう答えました。「そうです。もし十分な信仰を持つならば、主はその願いにこたえてくださるでしょう。」

バプテスマの日を迎え、サンティアゴが証を述べるよう依頼されたとき、わたしは彼の問いかけを思い出していました。わたしは、主の約束が直ちに果たされないこともあることを知っていたので、もしサンティアゴがすぐに話せるようにならなかつたら、がっかりするのではないかと心配でした。その後何日かしてもサンティアゴは話すのに苦労している様子でしたが、それほど気にしているようではありませんでした。

その後すぐに、わたしは転勤し、伝道が終わるまでサンティアゴには会いませんでした。わたしは伝道を終える前にお別れを言いに行きました。同僚と一緒に家を訪ねましたが、留守のようだったので、帰りかけました。そのとき、突然大きな声で呼び止められました。それはなんと、サンティアゴでした。

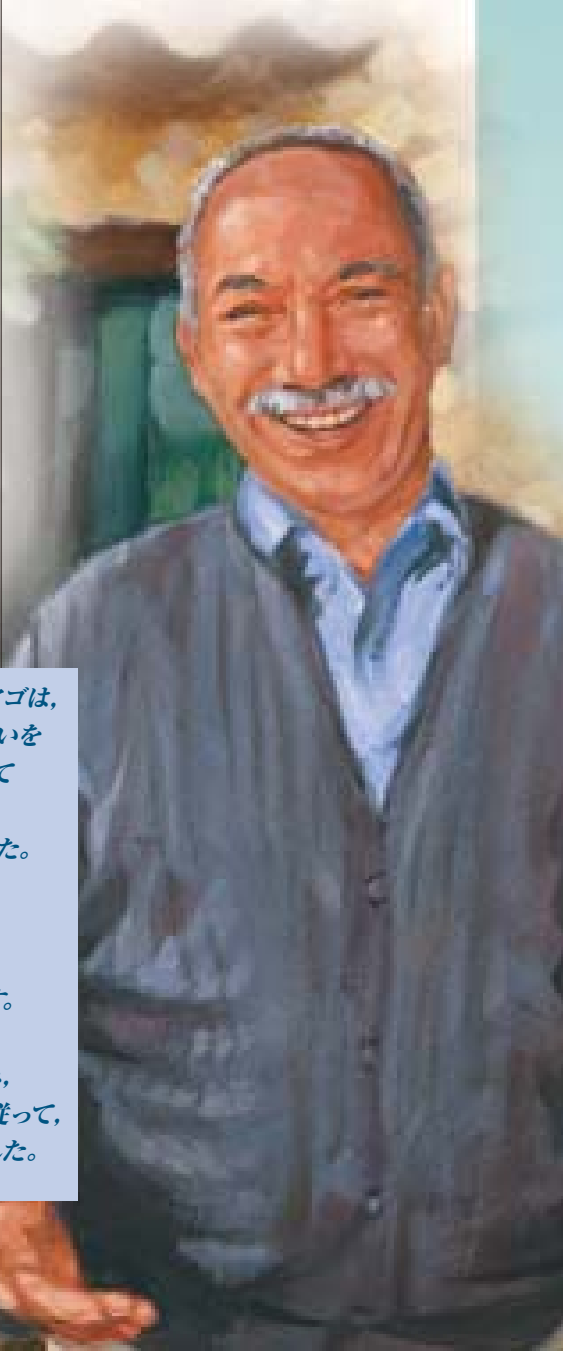
家に入ると、サンティアゴは教会の会員になれてどれほど幸せか話してくれました。すぐにわたしは、サンティアゴがほぼ完全に話していることに気づきました。驚いたわたしは、「サンティアゴ、上手に話せるようになりましたね」と叫びました。

サンティアゴは、主が願いをかなえてくださることを確信していました。サンティアゴも信仰を示し、自分の責任を果たしたのです。モルモン書を声に出して読み、医者

の勧めに従って、訓練を続けました。サンティアゴはこう言いました。「主はわたしの努力を見ていて、わたしの声を回復してくださったのです。主の祝福により、もう一度歌えるようになる日もそう遠くないと思います。」

わたしは、涙を抑えることができませんでした。その日、わたしはサンティアゴから大切な教訓を学びました。主の約束は必ずしもすぐにはかなわなくても、いつかは成就されるのです。■

サンティアゴは、
主が願いを
かなえて
くださることを
確信していました。
サンティアゴも
信仰を示し、
自分の責任を
果たしたのです。
モルモン書を
声に出して読み、
医者勧めに従って、
訓練を続けました。



御存じでしたか？

それは7月の出来事でした

1837年7月30日——バプテスマを受ける人たちの群れを走って追いつき、リプル川へ向かったジョージ・D・ワットは、イギリスで最初にバプテスマを受けた改宗者となりました。

彼にバプテスマを施したのは、ヒーバー・C・キンボール長老でした。

1847年7月24日——ブリガム・ヤングと開拓者たちがソルトレイク盆地に入植しました。

1929年7月24日——チェコスロバキア伝道部が組織されました。

1976年7月9日——日本岡山伝道部が組織されました。

指導者へのヒント

大管長会第二顧問のジェームズ・E・ファウスト管長は次のように教えています。

「救い主はペテロに指導者としての訓練をしておられたときにこう言われました。『あなたが立ち直ったときには、兄弟たちを力づけてやりなさい。』」(ルカ22:32)



「救い主が、『力づけてやりなさい』という言葉が使われたことは非常に興味深いことです。人を力づけるには、意志の疎

通を十分に図ることのできる状態になければなりません。しばしば問題が発生するのは、計画が間違っているからではなく、意志の疎通がよくないからです。」(『聖徒の道』1981年4月号, 68)

皆さんが家族やクラス、定員会で計画を立てるときには、意志の疎通を図ることを忘れないでください。話すばかりではなく、耳を傾ける必要があります。皆さんが指導するよう託されている人たちの声に耳を傾け、皆さんの両親や、青少年の指導者たちの話をよく聞き、そしてこれは最も大切なことです。御霊の^{みたま}声に耳を澄ませてください。

神の力を認識する

以下に記した聖句は、神の力がどのように現れるか、また、神権によってどのようなことができるかを示しています。それぞれの聖句を読んで、それに当てはまる絵や写真を探してください。



— 創世1:1

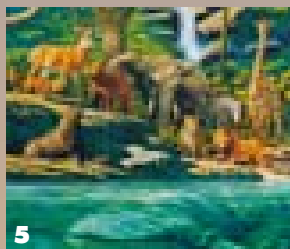
— マルコ14:22-24

— ヨハネ11:39-44

— ヨハネ9:1-7

— 3ニーファイ11:21

— ヒラマン12:9-17



模範的な行い

ビクトリア・メレニー

ハンガリーでは、高校を卒業するとき、ダンスパーティーを開きます。すべての教師、親、友人が招かれます。生徒たちはダンスを披露したり、いろいろな発表をします。わたしも卒業に際して、何か発表するよう頼まれ、ピアノを演奏することにしました。2曲選びましたが、そのうちの1曲は教会の賛美歌でした。ハンガリーでは教会員は多くないので、わたしの演奏を耳にする教会員がいるとは予想していませんでした。

ところが、ダンスパーティーを終えた次の日曜日、教会で、ある姉妹が興奮してわたしのところに歩み寄ると、わたしにお祝いの言葉を述べてくれました。そして、彼女をはじめ、教会の他の会員や求道者がわたしの演奏を聴いていたことを教えてくれました。

教会から足が遠のいている会員たちもそのダンスパーティーに出席し、わたしが賛美歌を演奏するのを聴いていたとのことでした。その姉妹は、教会主催でない活動で賛美歌が聞けたことがどれほどすばらしいことだったか語り、さらにその演奏が、出席した人たちの証^{あかし}を強めてくれた、と話しました。

自分が気づかずにだれかの良い模範になっていることもあるということ、そしてどんなにささやかな行いでも、人に大きな影響を与えることがあるということ学びました。■



父へのメッセージ

2006年9月号の『リアホナ』ほど心に残るものはありませんでした。ジェームズ・E・ファウスト管長の「愛してくれる父」というメッセージは、ほんとうに靈感を受けて書かれたものでした。まるでわたしと家族に直接語りかけているようでした。わたしの家族は母を亡くした父子家庭で、6人の子供がいます。父は教会から足が遠のいていましたが、わたしはその記事を読んだ後、ためらうことなく父に手渡しました。読めば、父も強められることでしょう。

コンゴ民主共和国, チバス・M・E・バロン

人生の指針

ある晩、わたしは『リアホナ』2006年1月号の「フレンド」を読んでいました。「気高い道を歩む」というタイトルで「預言者の声」に紹介されたゴードン・B・ヒンクレー大管長の話が、すぐにわたしの心をとらえました。心を鼓舞するこのメッセージを読んでいくと、その一つ一つの言葉がわたしに霊的な導きを与えてくれました。このメッセージは、わたしが人生の旅路を歩んでいくうえでの指針となりました。

フィリピン, コリーン・エミリー・G・メイビログ

宣教師は学ぶ

伝道を終えて大学へ戻ると、授業がとて難しくなっていました。

化学と数学を専攻していましたが、伝道中に化学や物理、数学の基礎知識を忘れてしまったようでした。大学へ戻り、最初のうちは大変でしたが、答えを見いだすために探求し続けることなど、伝道中に身に付けた姿勢は学業の場でもわたしを鼓舞してくれました。

自分の人生の中で主のことを第一に考え、伝道に出てよかったと思っています。2006年3月号の『リアホナ』に掲載されていたR・バル・ジョンソン長老の「主のチームに加わる」という記事を読んで、さらにその気持ちを強くしました。

ガーナ, アリストートル・ケレマンテン・フォクオ



他の人の必要を思い起こす

2006年10月号『リアホナ』は過去に発行された中で最も素晴らしいものの一つだと思います。教会のことを学んでいて、この10月号が自分たちに向けて語られているのだと感じた人は、大勢いることでしょう。わたし自身、教会に入ってから何年もたっていますが、長年教会に集っている人は、教会に入ったばかりの人やこれから入ろうとしている人たちが抱えている不安や恐れ、必要などが分かってなくなっていることがあります。

『リアホナ』10月号は彼らの必要に気づかせてくれました。

ドイツ, フェルカー・P・ゲブハルト

真の説明

皆さんの教会の宣教師に出会えたことはとても幸運でした。この若者たちのおかげで、『リアホナ』を知ることができました。素晴らしい書物です。『リアホナ』を通して、教会の使命と原則をはっきりと知ることができます。『リアホナ』には、人が出逢う様々な問題だけでなくその解決の仕方も採り上げられています。また教会の今後の方向性についても語られています。

2006年6月号の『リアホナ』に掲載されていた「アダムとエバの堕落」という記事を読みました。わたしたちの最初の母の正しさを証明してくれたことと、福音の中で描写されている複雑な出来事に正しい説明を与えようと飽くなき探求が行われていることへの感謝をお伝えしたいと思います。

ロシア, アラ・R・ムリセバ

記事をお寄せください

時折送られる簡単なアンケートを通じて『リアホナ』に関するご意見を下さる方を募集しています。ご協力いただける方は、氏名、ワード/ステーク(支部/地方部)を明記して電子メールで送信してください。メールアドレスは liahona@ldschurch.org です。件名欄には英語で“Reader Survey”と記してください。





絵画は愛の記憶

【サラを見つめて】リー・ウダル・ベニオン画

母親について、ハワード・W・ハンター大管長(1907-1995年)は次のように語った。
「そうです。人に顧みられない、忘れられた日常生活の英雄は、わたしたちの身近にいます。
……わたしの言う英雄とは、……昼夜を問わず、病気の子供のために懸命に看病する母親、
……いつも子供たちのそばにいて、愛し世話をする〔母親のことなのです〕。」
「真の偉大さ」『聖徒の道』1982年7月号、33-34参照



ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、
アイオワ州アイオワシティーステークに住む青少年や
他の人々に向けてこう語りました。

「大きな犠牲を払ってこの偉大な末日の業の礎^{いしずえ}を
築いた人々のことを決して忘れてはなりません。」

「アイオワを思う」8ページ参照